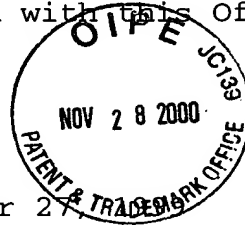


(translation of the front page of the priority document of
Japanese Patent Application No.11-272951)

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

This is to certify that the annexed is a true copy of the
following application as filed with this Office.



Date of Application: September 27,

Application Number : Patent Application 11-272951

Applicant(s) : Canon Kabushiki Kaisha

October 20, 2000

Commissioner,
Patent Office

Kouzo OIKAWA

Certification Number 2000-3086651

CFM 2006 US
S.N. 09/667,638
GAU 2122

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

1999年 9月27日

出 願 番 号

Application Number:

平成11年特許願第272951号

出 願 人

Applicant(s):

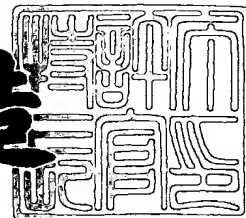
キヤノン株式会社



2000年10月20日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2000-3086651

【書類名】 特許願

【整理番号】 4040056

【提出日】 平成11年 9月27日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 3/00

【発明の名称】 情報処理装置及びその制御方法及び記憶媒体

【請求項の数】 17

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社
社内

 【氏名】 中川 久雄

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社
社内

 【氏名】 加藤 英二

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社
社内

 【氏名】 河野 章博

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社
社内

 【氏名】 亀井 洋一

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社
社内

 【氏名】 山川 正

【特許出願人】

 【識別番号】 000001007

【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代理人】

【識別番号】 100076428

【弁理士】

【氏名又は名称】 大塚 康德

【電話番号】 03-5276-3241

【選任した代理人】

【識別番号】 100093908

【弁理士】

【氏名又は名称】 松本 研一

【電話番号】 03-5276-3241

【選任した代理人】

【識別番号】 100101306

【弁理士】

【氏名又は名称】 丸山 幸雄

【電話番号】 03-5276-3241

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 003458

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9704672

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 情報処理装置及びその制御方法及び記憶媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ネットワークを介して、画像を含む文書情報を発信する情報処理装置であって、

画像入力手段と、

前記画像入力手段の入力スケジュール情報を記憶するスケジュール記憶手段と

前記スケジュール情報にしたがって、得られた画像を記憶する画像記憶手段と

前記文書情報の画像を、前記画像記憶手段に記憶された画像に置き換えて新たな文書情報を作成する文書作成手段と、

前記映像入力手段で入力され、記憶される画像について公開を禁止する条件を設定する設定手段と

を備え、該設定手段で設定された条件に合致する画像については非公開扱いとして配信対象から除外することを特徴とする情報処理装置。

【請求項 2】 前記配信手段は、前記ネットワーク上に設けられた文書閲覧用のサーバに配信し、当該サーバに存在する従前の文書を更新することを特徴とする請求項第 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 3】 前記設定手段は、前記スケジュール情報と共に、公開禁止時間帯を設定することを特徴とする請求項第 1 項又は第 2 項に記載の情報処理装置。

【請求項 4】 前記設定手段は、前記スケジュール情報と共に、各撮影ポジション毎に設定することを特徴とする請求項第 1 項乃至第 3 項のいずれか 1 つに記載の情報処理装置。

【請求項 5】 前記制御手段は、得られた画像それぞれについて撮影ポジションと撮影時刻とを関連付けて前記画像記憶手段に保存することを特徴とする請求項第 1 項乃至第 5 項のいずれか 1 つに記載の情報処理装置。

【請求項 6】 前記配信手段は、配信しようとする文書中に前記設定手段で

非公開扱い対象の画像があるかどうかを判断し、非公開画像がある場合には、該当画像を所定の情報と差し替えて配信することを特徴とする請求項第 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 7】 更に、作成した候補文書に対する配信を認証する認証手段と

、
該認証手段による認証処理が所定時間経過してもなされない場合、当該候補文書を前記ネットワーク上に配信する正式文書として決定し、配信する配信手段を備えることを特徴とする請求項第 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 8】 画像入力手段を有し、ネットワークを介して、画像を含む文書情報を発信する情報処理装置の制御方法であって、

前記画像入力手段の入力スケジュール情報を記憶するスケジュール記憶工程と

、
前記スケジュール情報にしたがって、得られた画像を記憶する画像記憶工程と

、
前記文書情報の画像を、前記画像記憶工程で記憶された画像に置き換えて新たな文書情報を作成する文書作成工程と、

前記映像入力工程で入力され、記憶される画像について公開を禁止する条件を設定する設定する設定工程と

を備え、該設定工程で設定された条件に合致する画像については非公開扱いとして配信対象から除外することを特徴とする情報処理装置の制御方法。

【請求項 9】 画像入力手段を有し、ネットワークを介して、画像を含む文書情報を発信する情報処理装置用のプログラムコードを格納する記憶媒体であって、

前記画像入力手段の入力スケジュール情報を記憶するスケジュール記憶工程のプログラムコードと、

前記スケジュール情報にしたがって、得られた画像を記憶する画像記憶工程のプログラムコードと、

前記文書情報の画像を、前記画像記憶工程で記憶された画像に置き換えて新たな文書情報を作成する文書作成工程のプログラムコードと、

前記映像入力工程で入力され、記憶される画像について公開を禁止する条件を設定する設定する設定工程のプログラムコードと

を備え、該設定工程で設定された条件に合致する画像については非公開扱いとして配信対象から除外とさせることを特徴とする記憶媒体。

【請求項 10】 ネットワークを介して発信するための文書情報中の画像を更新する情報処理装置であって、

撮影ポジションを遠隔操作可能な映像入力手段と、

該映像入力手段の撮影ポジションと撮影時刻を有するスケジュール情報を記憶するスケジュール記憶手段と、

該スケジュール記憶手段に記憶されたスケジュール情報中にしがって、前記映像入力手段を付勢し、得られた画像を所定の画像記憶手段に保存する制御手段と、

前記画像記憶手段に記憶された画像に基づいて、従前の文書情報を参照して新たな候補文書を作成する文書作成手段と、

作成した候補文書に対する認証処理が所定時間経過してもなされない場合、当該候補文書を前記ネットワーク上に配信する正式文書として決定し、配信する配信手段と、

前記映像入力手段で入力され、記憶される画像について公開を禁止する条件を設定する設定する設定手段と

を備え、該設定手段で設定された条件に合致する画像については非公開扱いとして配信対象から除外することを特徴とする情報処理装置。

【請求項 11】 前記配信手段は、前記ネットワーク上に設けられた文書閲覧用のサーバに配信し、当該サーバに存在する従前の文書を更新することを特徴とする請求項第 10 項に記載の情報処理装置。

【請求項 12】 前記設定手段は、前記スケジュール情報と共に、公開禁止時間帯を設定することを特徴とする請求項第 10 項又は第 11 項に記載の情報処理装置。

【請求項 13】 前記設定手段は、前記スケジュール情報と共に、各撮影ポジション毎に設定することを特徴とする請求項第 10 項乃至第 12 項のいずれか

1つに記載の情報処理装置。

【請求項 14】 前記制御手段は、得られた画像それぞれについて撮影ポジションと撮影時刻とを関連付けて前記画像記憶手段に保存することを特徴とする請求項第 10 項乃至第 13 項のいずれか 1 つに記載の情報処理装置。

【請求項 15】 前記配信手段は、配信しようとする文書中に前記設定手段で非公開扱い対象の画像があるかどうかを判断し、非公開画像がある場合には、該当画像を所定の情報と差し替えて配信することを特徴とする請求項第 10 項に記載の情報処理装置。

【請求項 16】 撮影ポジションを遠隔操作可能な映像入力手段を備え、ネットワークを介して発信するための文書情報中の画像を前記映像入力手段で撮影させる情報処理装置の制御方法であって、

該映像入力手段の撮影ポジションと撮影時刻を有するスケジュール情報を記憶するスケジュール記憶工程と、

該スケジュール記憶工程で記憶されたスケジュール情報中にしがって、前記映像入力手段を付勢し、得られた画像を所定の画像記憶手段に保存する制御工程と、

前記画像記憶手段に記憶された画像に基づいて、従前の文書情報を参照して新たな候補文書を作成する文書作成工程と、

作成した候補文書に対する認証処理が所定時間経過してもなされない場合、当該候補文書を前記ネットワーク上に配信する正式文書として決定し、配信する配信工程と、

前記映像入力手段で入力され、記憶される画像について公開を禁止する条件を設定する設定する設定工程と

を備え、該設定工程で設定された条件に合致する画像については非公開扱いとして配信対象から除外することを特徴とする情報処理装置の制御方法。

【請求項 17】 撮影ポジションを遠隔操作可能な映像入力手段を備え、ネットワークを介して発信するための文書情報中の画像を前記映像入力手段で撮影させる情報処理装置用のコンピュータプログラムコードを格納する記憶媒体であって、

該映像入力手段の撮影ポジションと撮影時刻を有するスケジュール情報を記憶するスケジュール記憶工程のプログラムコードと、

該スケジュール記憶工程で記憶されたスケジュール情報中にしたがって、前記映像入力手段を付勢し、得られた画像を所定の画像記憶手段に保存する制御工程のプログラムコードと、

前記画像記憶手段に記憶された画像に基づいて、従前の文書情報を参照して新たな候補文書を作成する文書作成工程のプログラムコードと、

作成した候補文書に対する認証処理が所定時間経過してもなされない場合、当該候補文書を前記ネットワーク上に配信する正式文書として決定し、配信する配信工程のプログラムコードと、

前記映像入力手段で入力され、記憶される画像について公開を禁止する条件を設定する設定する設定工程のプログラムコードと

を格納することを特徴とする記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は情報処理装置及びその制御方法及び記憶媒体、特に映像入力装置で撮影蓄積した画像を利用した電子文書を作成する情報処理装置及びその制御方法及び記憶媒体に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

近年、インターネットへの接続ユーザ数が著しく増えてきている。また、単にアクセスする側としてでなく、情報の発信源としてインターネット上にホームページを設けることも可能である。また、社内や関係会社の枠内でのネットワーク、所謂イントラネットも普及しつつある。

【0003】

自店舗の宣伝をする場合、これまでは新聞（及びその折り込み）及び雑誌、又は、放送を活用するのが一般的ではあった。しかし、ホームページを設けることで、省資源の問題も一掃することが可能で、自店舗のアピール目的という観点か

らすれば、今後、ますますこの形態が普及するものと考えられているし、身近な小店舗でもこのようなサービスを活用することが多くなろう。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

ホームページを変更する場合には、その自端末上でホームページを編集し、その結果をWWWサーバにアップロードするという作業が必要である。

【0005】

一個人のホームページの場合には、さほどの頻度ではないと考えられるが、頻繁にホームページを変更するような場合には、この作業は繁雑で別な意味でのコストを招くことになる。

【0006】

例えば、食堂のメニューなど陳列するホームページを考えてみる。この場合、品目に変更されたら速やかに公開している画像一覧ページの更新が望まれる。具体的には、デジタルカメラなどでそれぞれの品目を撮影しなおし、その画像データをHTML文書エディタなどを用いて取り込み、編集作業を行う。そして、最終的に出来上がったデータを、WWWサーバにアップロードするという作業を行うという手順になるだろう。

【0007】

したがって、品目変更時点で速やかに編集担当者に連絡を入れ、至急編集作業を行う必要がある。換言すれば、編集担当者は品目変更の可能性のある時間は待機しておく必要があり、今度は運用コストがかかってくる。また、非公開にした文書もしくは画像がある場合、その文書もしくは画像を公開対象外にするには操作者が1つ1つ検証する必要があった。

【0008】

本発明はかかる問題点に鑑みなされたものであり、ネットワーク上で発信するための文書に含ませる画像を、簡単に更新でき、しかも、所望とする撮影条件で撮影された画像について非公開として設定可能な情報処理装置及びその制御方法及び記憶媒体を提供しようとするものである。

【0009】

【課題を解決するための手段】

この課題を解決するため、例えば本発明の情報処理装置は以下の構成を備える。
すなわち、
ネットワークを介して、画像を含む文書情報を発信する情報処理装置であって、
画像入力手段と、
前記画像入力手段の入力スケジュール情報を記憶するスケジュール記憶手段と、
前記スケジュール情報にしたがって、得られた画像を記憶する画像記憶手段と、
前記文書情報の画像を、前記画像記憶手段に記憶された画像に置き換えて新たな文書情報を作成する文書作成手段と、
前記映像入力手段で入力され、記憶される画像について公開を禁止する条件を設定する設定手段とを備え、
該設定手段で設定された条件に合致する画像については非公開扱いとして配信対象から除外することを特徴とする。

【0010】

【発明の実施の形態】

以下、添付図面に従って本発明に係る実施形態を詳細に説明する。

【0011】

<第1の実施形態>

先ず、本発明に係る基礎的な構成とその動作を第1の実施形態として説明し、第2の実施形態以降で本願発明にかかる実施形態を説明する。

【0012】

図2は実施形態におけるシステム構成図である。図中、100は画像編集システムとして機能するカメラサーバであり、110はネットワーク（インターネット等）である。202は、ネットワーク110に接続するクライアント、203はWWW（ワールド・ワイド・ウェブ）サービスを提供するWWWサーバ203である。

【0013】

本実施形態では、カメラサーバ100で撮影・録画された画像を元に、ホームページ（以下、単にページという）が編集・作成され、それがWWWサーバ203にアップロードされる。そして、クライアント202からWWWサーバ203にアクセスすることで、カメラサーバ100で撮影された画像（ページ）を閲覧するという構成になる。

【0014】

実施形態における画像編集システムとして作動するカメラサーバ100の構成図を図1に示す。

【0015】

カメラサーバ100は、システムを立ち上げるのに必要なプログラムやデータが記憶されるメモリ101、演算や処理の制御を行うところの中央処理装置102、文字、記号、画等を表示するディスプレイ表示装置103、画像をキャプチャする画像入力インターフェース104、制御コマンド等を送受信するシリアルインターフェース105、データを保存する補助記憶装置（ハードディスク等）106、文字等を入力するキーボード装置107、表示された文字等をカーソルで指示するポインティングデバイス108、多地点間でデータの送受信を行うところのネットワーク通信インターフェース109が、バス112を介して接続される。

【0016】

カメラサーバ100は、ネットワーク通信インターフェース109を介してネットワーク110に接続されている。

【0017】

カメラ111は、画像をキャプチャする画像入力インターフェース（VC）104と制御コマンド等を受信したりステータス信号（現在の状況等）を送信するためのシリアルインターフェース（RS）105に接続されている。つまり、カメラ111に対する撮影に関する制御（パン角、チルト角、ズーム倍率、露出等）は、RS105を介してコマンドを送出することで行われ、撮影画像はVC104で受信し、デジタルデータとして内部に取込まれる。この制御にかかるプログ

ラムは、メモリ 101 に格納されている。

【0018】

メモリ 101 には、大別して動作設定プログラム 113、録画実行プログラム 114、候補編集プログラム 115、及びページ選択プログラム 116 が格納される。

【0019】

なお、上記プログラムは記憶媒体（図示せず）に納められ、バス 112 に接続された当該記憶媒体の駆動装置（図示せず）を介して、メモリ 101 上にロードされ実行されるのでもよい。換言すれば、カメラサーバ 100 は、カメラ 111 を接続するためのインタフェースを有するものの、汎用情報処理装置（例えばパーソナルコンピュータ等）を活用することも可能である。

【0020】

上述の構成よりなる実施形態の動作を以下順を追って詳述する。

【0021】

カメラサーバ 100 は、動作設定プログラム 113 の実行によってオペレータによって設定された時刻になると、予め決められた位置の映像をカメラ 111 に撮影させ、それを蓄積する。

【0022】

このカメラサーバの撮影スケジュールを設定する動作設定の例を図 3 に示し、動作設定プログラムの流れを図 6 のフローチャートを用いて説明する。

【0023】

まず、既存の設定データ（図示せず）を補助記憶装置 106 より読み込み（S601）、読み込まれたデータにしたがって図 3 の 301 のような設定ページ画面を表示する（S602）。設定データが存在しない場合には、以下に説明する各項目は空欄のままとなる。

【0024】

この画面において、フィールド 302、フィールド 303、フィールド 304 はそれぞれ撮影開始時刻、撮影終了時刻、撮影間隔を入力する欄である。

【0025】

また、第1プリセットポジションのパン、チルト、ズームの情報は、それぞれ、フィールド306-1p, 306-1t, 306-1zで入力できる。第2プリセットポジションのパン、チルト、ズームの情報は、それぞれ、フィールド306-2p, 306-2t, 306-2zで入力できる。同様に、本実施形態では5つまでのプリセットポジションをそれぞれのフィールドで入力できる。もちろん、数を増減させることは可能である。

【0026】

以下、設定保存ボタン307が押されるまで、ステップS604の設定入力処理を繰り返し、設定保存ボタン307が押されるとステップS605に進む（S603）。

【0027】

設定入力処理（ステップS604）では、各種のフィールドへのデータ入力をチェックし、入力データの表示を変更する。図3の例では、撮影開始時刻、撮影終了時刻、撮影間隔、および、第1から第4までのプリセットポジションのカメラアングル情報が設定されている。

【0028】

第5プリセットポジションにはデータが指定されていないので、撮影開始時刻から撮影終了時刻まで、指定された撮影間隔でそれぞれ、4つのプリセットポジションの撮影と録画が指定されたことになる。

【0029】

ステップS605では、表示されている各情報が補助記憶装置106に設定ファイルとして書き込まれる。

【0030】

たとえば、図3の例では、10時00分から11時40分までの間、20分間隔で（計6回）第1プリセットポジションのカメラアングル（パン値9.72, チルト値0.00, ズーム値46.80）画像から第4プリセットポジションのカメラアングル（パン値11.30, チルト値5.00, ズーム値40.00）画像まで4枚ずつ撮影を行うという設定が保存される。

【0031】

なお、このとき、各撮影時刻に録画実行プログラム114が起動されるようにオペレーティングシステムに登録が行われる。以上で、動作設定プログラムの説明を終了する。

【0032】

動作設定プログラムにより指定された時刻になると、録画実行プログラム114が呼び出され、映像の撮影・蓄積が行われる。

【0033】

ここでは、録画実行プログラムの流れを図7のフローチャートを用いて説明する。

【0034】

まず、設定ファイルのデータ（図示せず）が補助記憶装置106より読み込まれ（ステップS701）、各プリセットポジションに対して、所定のカメラアングルの画像取得コマンドをカメラ111におくることにより、カメラ111を制御して画像が取得され、その画像がそのタイミングとプリセットポジションごとに補助記憶装置に書き込まれる（ステップS702）。

【0035】

たとえば、図3の第1プリセットポジションに対しては、次のような画像取得コマンドがカメラ111に対して発行される。

【0036】

GetStillImage?pan=9.72&tilt=0.00&zoom=46.80&...

そして、図1に示す如く、撮影時刻10:00から、第1プリセットポジションの画像が「画像データ120-1-1」、第2プリセットポジションの画像が、「画像データ120-2-1」、第3プリセットポジションの画像が「画像データ120-3-1」、第4プリセットポジションの画像が「画像データ120-4-1」として補助記憶装置106にファイルとして保存される。

【0037】

同様に、次の撮影時刻10:20から、第1プリセットポジションの画像が、「画像データ120-1-2」、第2プリセットポジションの画像が「画像データ120-2-2」…というように保存されていく。以上で、録画実行プログラ

ムの説明を終了する。

【0038】

以上の説明において、動作設定データは、補助記憶装置106に保存される例を述べたが、動作設定プログラム113終了後もデータ消去しないようにすれば、メモリ101においてもかまわない。

【0039】

次に画像編集の流れの例を図4に示す。

【0040】

ここでは、候補編集プログラム115の流れを図8のフローチャートを用いて説明する。これは、ページ候補編集者がページ選択プログラム115を起動することによって処理が開始される。

【0041】

本実施形態では「食堂メニューページ」（例えば社内にイントラネットが構築されていて、その社員食堂のメニューページ）を作成する例を説明する。

【0042】

まず、画像ページ候補がひとつもない場合には、撮影・蓄積された画像データを基に各撮影位置の特定時刻の画像が一覧表示される画像ページが生成される。

【0043】

そして編集ページ選択のための候補リスト画面410が表示される（ステップS801）。

【0044】

候補の一つが選択されると、システムが生成した画像ページがページ案1として変更画像選択画面411が表示される（ステップS802）。

【0045】

ここでは、編集前のページ案データ401のように、ページ案1は1～4のプリセットポジションについて画像データ120-1-1, 120-2-1, …のように各プリセットポジションの最初の候補画像が用いられている。

【0046】

次に、完了ボタンが押されたらステップS806に進む。また、表示画像のい

ずれかが選択されるとステップ S 805 に進む（ステップ S 803、S 804 の判断処理）。

【0047】

ステップ S 805 では、選ばれた画像と同じプリセットポジションでのそれぞれの時刻での撮影画像が差し替え候補画像として表示された差し替え画像選定画面 412 が表示される。そのうちの 하나가選択されるとその時刻の画像に差し替えられ、ステップ S 802 に戻り処理を繰り返す。すなわち、変更画像選択画面 413 が表示される。

【0048】

たとえば、画像 421-2-1 を変更しようとして、これをクリックすることで、この画像が選択され、ステップ S 805 に進む。

【0049】

画像 421-2-1 は、画像データ 120-2-1 に対応し、第 2 プリセットポジションの最初の撮影画像である。そして、第 2 プリセットポジションの撮影時間が異なる画像候補の選択画面が表示される。そこで、画像 421-2-3 が選択されると、画像データ 120-2-1 が画像データ 120-2-3 に置換えられたページ案データ 402 が作成される。

【0050】

こうして、完了ボタン 422 が押されると、ページ案データ 402 が補助記憶装置 106 に保存され（ステップ S 806）、候補リストが更新され（ステップ S 807）、次回の編集処理では、候補リスト画面は 414 のように候補が一つ追加されて表示が行われる。以上で、候補編集プログラムの説明を終了する。

【0051】

全ての画像差し替え編集が終わると、次にページ選択プログラム 116 により、ページの承認処理と WWW サーバ 203 へのアップロード処理が行われる。

【0052】

これは、承認者がページ選択プログラム 116 を起動することによって処理が開始される。

【0053】

このページ承認の流れの例を図5に示す。ここでは、ページ選択プログラムの流れを図9のフローチャートを用いて説明する。

【0054】

先ず、WWWサーバへの接続が行われ、このときに、まず承認者の認証画面501が表示され、認証処理が行われる（ステップS901）。認証されない場合は処理は中断される。

【0055】

認証されると、候補ページ選択画面502が表示され（ステップS902）、対象候補が選択されるとページ承認処理画面503が表示される（ステップS903）、ここで、却下ボタン510が押されると処理が終了し、承認ボタン511が押されたと判断すると（ステップS904）、ステップS905に進む。

【0056】

ステップS905では、承認された画像ページが、WWWサーバ203へアップロード転送され、処理が終了する。なお、イントラネットのようなネットワークではなく、一般の公衆回線を使用している場合（例えばインターネットでも良い）には、転送終了した場合に回線の切断処理を行うようにすることも可能である。

【0057】

上記のような手順により、WWWサーバ202上のWWWサービスにより画像ページがネットワークに公開され、クライアント上のWWWブラウザよりアクセス表示することが可能となる。

【0058】

以上で、ページ選択プログラムの説明を終了する。

【0059】

なお、複数の人が画像ページ候補編集者として本システムを活用することができる。

【0060】

ある編集者が編集したページを元にして、別の編集者が別の画像ページを簡単に作成することができる。したがって、ボランティアベースで候補案を作成し、

最終的に責任者がどれかを選択承認してページ公開するという運用が可能となる。

【0061】

以上説明したように、本実施形態によれば、各ポジションごとに適当な撮影画像を選択するだけで、画像ページを作成可能になり、編集作業の負担を大きく減らすことができる。システムにより自動生成された画像ページのうち、変更の必要のあるポジションのみ撮影画像差し替えの選択を行うだけで画像ページを修正可能になり、うまく撮影されていないポジションのみ変更すればよくなり、編集作業の負担をさらに減らすことができる。更に、ボランティアベースで、複数の有志に任せて、いくつかの候補となる画像ページを作成してもらうこともでき、作成された候補となる複数の画像ページから一ついいものを選定選択するだけで、画像ページがたとえばWWWサーバにアップロードされ、画像ページの公開ができるようになり、さらに運用コストを下げることもできる。

【0062】

<第2の実施形態>

上記第1の実施形態では承認者が承認することで画像ページが一般公開されたが、これに限るわけではない。

【0063】

本第2の実施形態では、所定時間を経過しても承認が行なわれない場合に候補ページを自動的に承認する。こうすることによって、所定時間がたってもページが一般公開されないことを防ぎ、運用のコストを下げることもできる。

【0064】

本第2の実施形態の詳細について以下に述べる。

【0065】

システム構成図は図1に示したカメラサーバ構成図の動作設定プログラム113とページ選択プログラム116を、図10に示す如く、それぞれ動作設定プログラム30113と、ページ選択プログラム30116に変更したものであり、それ以外は実質的に同じである。

【0066】

次に、本実施形態の動作について詳細に説明する。

【0067】

動作設定プログラム30113の動作設定の例を図11に示し、説明する。

【0068】

図11は第2の実施形態の図3に、フィールド30000を加え、自動選定時刻を入力できるようにしたものである。

【0069】

動作設定プログラム30113の動作の流れは、第1の実施形態の図6と同様であるが、図12に示す如く、ステップS601'で既存設定及び自動選定時刻を読み込み、ステップS602'において表示する対象として設定ページ及び自動選定時刻としたものである。

【0070】

また、録画実行プログラム114及び候補編集プログラム115の動作については第1の実施形態と同様である。

【0071】

次に、ページ選択プログラム30116の動作の流れについて、図13のフローチャートにしたがって説明する。

【0072】

ページ選択プログラムは承認者がページ選択プログラムを起動するか、そうでない場合に所定の自動選定時刻になると起動される。

【0073】

同図のステップS30103～S30106の処理は、それぞれ第1の実施形態の図9のステップS901～S904の処理と同様である。

【0074】

まず、ステップS30101で自動選定時刻に起動したと判断した場合、ステップS30102で候補編集プログラム115のステップS801と同様の処理によって作成された画像候補ページ案1を承認する。

【0075】

そして、第1の実施形態の図9のステップS905と同様のステップS301

07においてページをアップロードする。

【0076】

また、ステップS30101で自動選定時刻にでなく承認者が起動した場合、処理はステップS30103のパスワード認証処理に進む。この後は、図9と同様であって、ステップS30107では第1の実施形態の図9のステップS905と同様にページをアップロードした後に、自動選定時刻の設定をクリアする。

【0077】

なお自動選定時刻はクリアせずに、ステップS30107で承認済みの情報を持たせて、承認済みの場合はアップロードしないようにしても良い。

【0078】

こうすることによって、所定の自動選定時間になるまでに承認者が承認しない場合、自動的に、画像候補ページ案1を作成しアップロードさせることで、所定時間になってもページが一般公開されないことを防ぎ、運用のコストを下げることができる。

【0079】

<第3の実施形態>

第2の実施形態では所定時刻までに承認されない場合に無条件に画像候補ページを自動的に承認したがこれに限るわけではない。

【0080】

本第3の実施形態では、所定時間を経過しても承認が行なわれない場合に、候補ページの中から適当なページを選択して、自動的に承認する。

【0081】

こうすることによって、所定時間がたってもページが一般公開されないことを防ぎ、かつ有志によって選定された候補ページで適当なページを公開でき、運用のコストを下げるができる。

【0082】

本第3の実施形態の詳細について以下に述べる。

【0083】

システム構成図は、図14に示す如く、第2の実施形態におけるカメラサーバ

構成の候補編集プログラム 115 とページ選択プログラム 30116 を、それぞれ、候補編集プログラム 31115 と、ページ選択プログラム 31116 に変更したものである。第 1 の実施形態における図 1 のカメラサーバ構成の HD106 の中に候補重要度リスト 31000 を加えた。

【0084】

以下、上記構成における本第 3 の本実施形態の動作について詳細に説明する。

【0085】

動作設定プログラム 30113 の動作については第 2 の実施形態と同様である。また、録画実行プログラム 114 の動作についても第 1、又は第 2 の実施形態と同様である。

【0086】

候補編集プログラム 31115 の動作の流れは、第 1 の実施形態の図 8 のフローチャートに対し、図 15 に示す如く、ステップ S31008 の候補重要度リストの更新処理が加わったものである。図 15 におけるステップ S31001～S31007 は、それぞれ図 8 のステップ S801～S807 に同じである。

【0087】

動作としては、ステップ S31007 の候補リストを更新処理の後に、ステップ S31008 において、候補重要度リストの更新処理を行ない、候補編集プログラム 31115 は終了する。

【0088】

ここで、ステップ S31008 の候補重要度リスト 31000 の例を図 16 に示す。

【0089】

これはどの候補ページがどの候補ページを元にして編集されているかの編集履歴を保存しているものである。

【0090】

自動で生成された候補ページ案 1 の重要度リスト 31000 には、「候補ページ案 1 : 」,

候補ページ案 1 を元に修正した候補ページ案 2 には、「候補ページ案 2 : 候補

ページ案 1 →」,

候補ページ案 2 を元に修正した候補ページ案 3 には、「候補ページ案 3 : 候補ページ案 1 → 候補ページ案 2」,

候補ページ案 3 を元に修正した候補ページ案 4 には、「候補ページ案 4 : 候補ページ案 1 → 候補ページ案 2 → 候補ページ案 3」,

候補ページ案 2 を元に修正した別の候補ページ案 5 には、「候補ページ案 5 : 候補ページ案 1 → 候補ページ案 2」,

といったようなリストを保持させる。

【0091】

ステップ S31008 候補重要度リストの更新処理では、候補重要度リスト 31000 を更新し、これらの編集履歴を保存する処理を行うことになる。

【0092】

次に、ページ選択プログラム 31116 の動作の流れについて、図 17 のフローチャートを用いて説明する。

【0093】

ステップ S31201, S31203 ~ S31207 の処理は、それぞれ第 2 の実施形態における図 13 のステップ S30101, S30103 ~ S30107 の処理と同様である。図 17 のフローチャートは図 13 のフローチャートのステップ S30102 がステップ S31202 に変更されたものである。

【0094】

ページ選択プログラムは承認者がページ選択プログラムを起動するか、そうでない場合に所定の自動選定時刻になると起動される。

【0095】

ステップ S31201 で自動選定時刻に起動した場合、処理はステップ S31202 に進み、候補編集プログラム 31115 のステップ S31008 で作成された候補重要度リスト 31000 で、例えば、一番長い編集履歴を持つ候補ページ案 3 を重要度の高いページ案として承認する。

【0096】

そして、第 2 の実施形態の図 13 の S30107 と同様、ステップ S3120

7においてページをアップロードする。

【0097】

こうすることによって、所定の自動選定時間になるまでに承認者が承認しない場合、有志によって編集された候補ページ案のうちもっとも良く編集されたと思われるページ案をアップロードさせることで、所定時間になってもページが一般公開されないことを防ぎ、運用のコストを下げるができる。

【0098】

＜第4の実施形態＞

上記第3の実施形態3では重要度のリストは編集の履歴であったがこれに限るわけではない。

【0099】

本第4の実施形態では、所定時間を経過しても承認が行なわれない場合に、候補ページの中から適当なページを編集回数と編集時刻の記録から選択して、自動的に承認する。こうすることによって、所定時間がたってもページが一般公開されないことを防ぎ、かつ有志によって選定された候補ページで適当な良好なページを公開でき、運用のコストを下げるができる。

【0100】

以下、本第4の実施形態の詳細について以下に述べる。

【0101】

システム構成図は第3の実施形態のカメラサーバ構成の候補編集プログラム31115とページ選択プログラム31116を、図18に示すごとく、それぞれ、候補編集プログラム32115と、ページ選択プログラム32116に変更したものである。また、第3の実施形態のカメラサーバ構成のHD106の中に候補重要度リスト31000を32000と変更する。

【0102】

上記構成における第4の実施形態の動作について詳細に説明する。

【0103】

動作設定プログラム30113の動作については第3の実施形態と同様である。また、録画実行プログラム114の動作についても第1乃至第3の実施形態と

同様である。

【0104】

次に、候補編集プログラム32115の動作の流れは、第3の実施形態の図13のフローチャートのS31008の候補重要度リストの更新処理が本第4の実施形態に適用させるために変更されるだけなので、図示しない。

【0105】

本第4の実施形態における候補重要度リスト32000の例を図19に示す。図示の如く、本第4の実施形態では、どの候補ページが何回編集されているか、最終更新時刻はいつかを保存している。

【0106】

自動で生成された候補ページ案1の重要度リスト32000には、「候補ページ案1：0回，11：20」，

候補ページ案1を元に修正した候補ページ案2には、「候補ページ案2：1回，11：25」，

候補ページ案2を元に修正した候補ページ案3には、「候補ページ案3：2回，11：30」，

候補ページ案3を元に修正した候補ページ案4には、「候補ページ案4：3回，11：55」，

候補ページ案2を元に修正した別の候補ページ案5には、「候補ページ案5：2回，11：40」，

候補ページ案5を元に修正した別の候補ページ案5には、「候補ページ案6：3回，11：45」，

といったようなリストを保持させる。

【0107】

すなわち、候補重要度リスト32000の元となる候補ページの修正回数に1を加え、編集時刻を保存した新規候補ページの候補重要度を保持し、候補重要度リスト32000を更新する処理が、図13のステップS31008と同等のステップで行なわれる。

【0108】

また、ページ選択プログラム 32116 の動作の流れは、図 17 のフローチャートのステップ S31202 の重要度の高さをみる処理が、本第 4 の実施形態に適用されるだけであるので、図示しない。ここでは、例えば、候補編集プログラム 32115 で作成された図 19 に示す候補重要度リスト 32000 で編集回数が多く、もっとも最近に更新されているページ案 3 を重要度の高いページ案として承認する。

つまり、11:45 (11 時 45 分) には存在した候補ページ 6 を元に編集することも可能であった有志が、11:55 に候補ページ 4 を作成した場合に、どちらも同じ回数修正されているが、ページ 4 の方がより重要度が高いと考える。

【0109】

こうすることによって、所定の自動選定時間になるまでに承認者が承認しない場合、有志によって編集された候補ページ案のうちもっとも多くの他の候補ページを利用できる有志が編集したページ案を承認させることで所定時間になってもページが一般公開されないことを防ぎ、良好な画像ページをアップロードでき運用のコストを下げるができる。

【0110】

<第 5 の実施形態>

第 3、第 4 の実施形態では編集されたことを重要度に用いていたが、これに限るわけではない。

【0111】

本第 5 の実施形態では、変更不必要として編集されずにそのまま賛同された候補ページを記録して、所定時間を経過しても承認が行なわれない場合に、候補ページの中から適当なページを編集回数と編集時刻とそのまま賛同の記録から選択して、自動的に承認する。

【0112】

こうすることによって、所定時間がたってもページが一般公開されないことを防ぎ、かつ有志によって選定された候補ページで適当な良好なページを公開でき、運用のコストを下げるができる。

【0113】

本第5の実施形態の詳細について以下に述べる。システム構成図は第4の実施形態のカメラサーバ構成の候補編集プログラム32115とページ選択プログラム32116を、図20に示す如く、それぞれ、候補編集プログラム33115と、ページ選択プログラム33116に変更したものである。また、第4の実施形態のカメラサーバ構成のHD106の中の候補重要度リスト32000を候補重要度リスト33000に変更を加えた。

【0114】

本5の実施形態の動作について詳細に説明する。

【0115】

なお、動作設定プログラム30113の動作については第4の実施形態と同様である。また、録画実行プログラム114の動作については第1乃至第4の実施形態と同様である。

【0116】

図21に本第5の実施形態における画像編集の流れの例を示す。33001は候補ページを賛同するボタンであり、ポインティングデバイスで指示可能なものである。

【0117】

候補編集プログラム33115の動作の流れは、第3の実施形態における図15とほぼ同じであるが、図22に示す如く、ステップS33109の賛同するステップが加わり、ステップS31008と同等のステップS33108の候補重要度リスト更新処理が変更された点が異なる。また、ステップS33101～S33107は、それぞれ図13のステップS31001～S31007に同じである。

【0118】

ステップS33102で候補ページが表示された際に、ステップS33109で図21の33001の賛同ボタンを押すと、ステップS33108で候補重要度リスト33000の賛同された回数記録を1増やし、候補重要度リスト33000を更新して終了する。

【0119】

賛同ボタンが押されない場合はそのままステップ S 3 1 0 0 3 と同等のステップ S 3 3 1 0 3 のステップに進む。

【0120】

ステップ S 3 3 1 0 8 で更新される候補重要度リスト 3 3 0 0 0 の例を図 2 3 に示す。

【0121】

これはどの候補ページが何回編集されているか、最終更新時刻はいつか賛同された回数はいくつかを保存しているものである。

【0122】

自動で生成された候補ページ案 1 の重要度リスト 3 3 0 0 0 には、「候補ページ案 1 : 0 回, 1 1 : 2 0, 1 回」,

候補ページ案 1 を元に修正した候補ページ案 2 には、「候補ページ案 2 : 1 回, 1 1 : 2 5, 3 回」,

候補ページ案 2 を元に修正した候補ページ案 3 には、「候補ページ案 3 : 2 回, 1 1 : 3 0, 1 回」,

候補ページ案 3 を元に修正した候補ページ案 4 には、「候補ページ案 4 : 3 回, 1 1 : 5 5, 0 回」,

候補ページ案 2 を元に修正した別の候補ページ案 5 には、「候補ページ案 5 : 2 回, 1 1 : 4 0, 0 回」,

候補ページ案 5 を元に修正した別の候補ページ案 5 には、「候補ページ案 6 : 3 回, 1 1 : 4 5, 1 回」,

といったようなリストを保持させる。

【0123】

すなわち、候補重要度リスト 3 3 0 0 0 の元となる候補ページの修正回数、あるいは賛同回数に 1 を加え、編集時刻を保存した新規候補ページの候補重要度を保持し、候補重要度リスト 3 3 0 0 0 を更新する処理が、ステップ S 3 1 0 0 8 と同等のステップ S 3 3 1 0 8 で行なわれる。

【0124】

ページ選択プログラム 3 3 1 1 6 の動作の流れは、第 3 の実施形態の図 1 7 の

フローチャートのステップ S31202 の重要度の高さを見る処理が変更されたものである（図示せず）。

【0125】

候補編集プログラム 33115 で作成された図 23 に示す候補重要度リスト 33000 で例えば編集回数と賛同回数の和が多く、もっとも最近に更新されているページ案 6 を重要度の高いページ案として承認する。

【0126】

つまり、たとえば、編集回数が 1 回の候補ページ案 2 と、3 回の候補ページ案 6 でも、両者とも編集+賛同の回数が 4 回であり、同程度に重要と考えることができる。この場合、新しく更新されている候補ページ案 6の方がより重要度が高いと考えることもできる。

【0127】

こうすることによって、所定の自動選定時間になるまでに承認者が承認しない場合、有志によって編集された候補ページ案のうちもっとも多くの他の候補ページを利用できる有志が編集して、そのまま賛同する人も多かったページ案を承認させることで所定時間になってもページが一般公開されないことを防ぎ、良好な画像ページをアップロードでき運用のコストを下げることもできる。

【0128】

<第 6 の実施形態>

第 3 乃至第 5 の実施形態では候補ページの編集や賛同を重要度に用いていたが、これに限るわけではない。

【0129】

本第 6 の実施形態では、画像の選定やそのまま賛同したという情報を用いて候補ページを選択し、自動的に承認する。

【0130】

こうすることによって、所定時間がたってもページが一般公開されないことを防ぎ、かつ有志によって選定された候補ページで適当なより良好なページを公開でき、運用のコストを下げることもできる。

【0131】

以下、本第 6 の実施形態の詳細について以下に述べる。

【0 1 3 2】

システム構成図は第 5 の実施形態のカメラサーバ構成の候補編集プログラム 3 3 1 1 5 とページ選択プログラム 3 3 1 1 6 を、図 2 4 に示す如く、それぞれ、候補編集プログラム 3 4 1 1 5 と、ページ選択プログラム 3 4 1 1 6 に変更した点と、カメラサーバの構成の HD 1 0 6 の候補重要度リスト 3 3 0 0 0 を候補重要度リスト 3 4 0 0 0 に変更し、画像重要度リスト 3 4 0 0 1 を加えた点である。

【0 1 3 3】

本第 6 の実施形態の動作について詳細に説明する。

【0 1 3 4】

動作設定プログラム 3 0 1 1 3 の動作については第 5 の実施形態と同様である。また、録画実行プログラム 1 1 4 の動作については第 1 乃至第 5 の実施形態と同様である。

【0 1 3 5】

図 2 5 に本第 6 の実施形態における画像編集の流れの例を示す。図中、3 4 0 0 2 は選択された画像をそのまま賛同するボタンである。

【0 1 3 6】

候補編集プログラム 3 4 1 1 5 の動作の流れは、第 5 の実施形態の図 2 2 のフローチャートとほぼ同じであるが、図 2 6 に示す如く、図 2 2 のステップ S 3 4 1 0 5 の差替え画像選定記録処理と、S 3 4 1 0 8 の候補重要度リストの更新処理が、変更されたものである。

【0 1 3 7】

ステップ S 3 4 1 0 1 ~ S 3 4 1 0 4, S 3 4 1 0 6 ~ S 3 4 1 0 7 は、それぞれ、図 2 2 のステップ S 3 3 1 0 1 ~ S 3 3 1 0 4, S 3 3 1 0 6 ~ S 3 3 1 0 7 と同じである。

【0 1 3 8】

ステップ S 3 4 1 0 4 で画像選択が行なわれたのにつづくステップ S 3 4 1 0 5 では、画像賛同ボタン 3 7 0 0 0 1 付の差替え画像選定画面 3 4 4 1 2 が表示

され、ボタン 3 7 0 0 1 が押された時は、そのまま画像重要度リスト 3 4 0 0 1 の対象画像の賛同欄をカウントアップする。

【0 1 3 9】

他の画像が選択されたらその画像に差し替えられ、画像重要度リスト 3 4 0 0 1 の対象画像の選択欄をカウントアップする。

【0 1 4 0】

具体的には、第 5 の実施形態の図 2 2 のステップ S 3 3 1 0 5 と同様、ステップ S 3 4 1 0 5 の差替え画像選定記録処理で画像が選択された場合、画像重要度リスト 3 4 0 0 1 の画像選択回数を 1 増やし、画像重要度リスト 3 4 0 0 1 を更新する。

【0 1 4 1】

また、ステップ S 3 4 1 0 5 の差替え画像選定記録処理で 3 4 0 0 2 の賛同ボタンが押された場合、画像重要度リスト 3 4 0 0 1 の画像賛同回数を 1 増やし、画像重要度リスト 3 4 0 0 1 を更新する。そしてステップ S 3 4 1 0 2 に戻り候補ページ表示処理を行なう。

【0 1 4 2】

本第 6 の実施形態における画像重要度リスト 3 4 0 0 1 の例を図 2 7 に示す。これは、どの画像が何回選択されたか、またそのまま賛同されたかを保存しているものである。

【0 1 4 3】

これは例えば、録画実行プログラム 1 1 4 によって生成された画像データ 1 2 0 - 1 - 1, 1 2 0 - 2 - 1, … の全てについて、選択回数、そのまま賛同回数をリストで保持しているものである。

【0 1 4 4】

ステップ S 3 4 1 0 8 の候補重要度リスト 3 4 0 0 0 の例を図 2 8 に示す。これは第 5 の実施形態の図 2 2 の候補重要度リスト 3 3 0 0 0 に、ステップ S 3 4 1 1 0 で作成された画像重要度リスト 3 4 0 0 1 からたとえば候補ページの重要度を算出した点数を保持するものである。

【0 1 4 5】

この点数は、例えば候補ページ案 1 に含まれる画像データが 120-1-1, 120-2-1, 120-3-1, 120-4-1 の場合、それぞれの画像の選択回数及び賛同回数を全て加算することなどで実現できる。

【0146】

また、全く選択も賛同もされていない画像データに関しては、有志の意思が働いていないと考えることもできることから、その画像データを含む候補ページの重要度を 0 とする。

【0147】

この際、画像重要度リスト 34001 から算出する重要度の点数のみを 0 としても良い。

【0148】

また、全く選択も賛同もされていない画像データに関して、マイナスの点数と考へ、該当する点数から例えば 1 を減算し、該当する画像データを含む候補ページの重要度を下げることができる。

【0149】

この際、減算する点数は 1 だけに限らず所定の点数でも良い。

【0150】

ページ選択プログラム 34116 の動作の流れは、第 3 の実施形態の図 17 のフローチャートのステップ S31202 の重要度の高さを見る処理を変更させればよい。

【0151】

候補編集プログラム 34115 で作成された図 28 に示す候補重要度リスト 34000 で例えば編集回数と賛同回数の和が、候補ページ 2 と候補ページ 6 では 4 と同程度に重要であるが、編集回数と賛同回数と画像重要度の点数の和は、候補ページ 2 で 10、候補ページ 6 では 11 となり、候補ページ 6 の方がより重要度が高いと考えられる。

【0152】

また点数が同じでも、もっとも最近に更新されているページ案を重要度の高いページ案として承認する。

【0153】

つまり、たとえば、編集画数+賛同回数+画像重要度点数が高く最も新しく更新されている候補ページ案6を重要度が高いと考える。

【0154】

ここで候補ページ6に含まれる画像データに関して全く選択も賛同もされていないものが含まれ、候補ページ2にはそれが含まれていないとした場合、候補ページ6の、全ての画像に対しては有志の意思が働いていない、と考えることもできることから、候補ページ6を候補と考えず、候補ページ2の重要度が高いという重要度算出法を用いても良い。

【0155】

また、この際、たとえば、賛同されていない画像にマイナスの画像重要度点数をつけていることで、人為のおよんでいない候補ページ6の重要度を下げ、より好適に編集された候補ページ2の重要度を相対的に上げることができる。

【0156】

こうすることによって、所定の自動選定時間になるまでに承認者が承認しない場合、有志によって編集された候補ページ案のうちもっとも多くの他の候補ページを利用できる有志が編集して、そのまま候補ページを賛同する人も多く、かつ候補ページを作成する際に多く選択あるいは賛同された画像を含む候補ページ案を承認させることで所定時間になってもページが一般公開されないことを防ぎ、より良好な画像ページをアップロードでき運用のコストを下げることもできる。

【0157】

＜第7の実施形態＞

第3乃至第6の実施形態では重要度を候補ページの自動承認に用いていたが、これに限るわけではない。

【0158】

本第7の実施形態では、重要度によって、候補ページリストの順番を変えて表示する。

【0159】

こうすることによって、候補ページを元にして新たに画像ページを作成する際

に、どの候補ページを用いるべきかを分かりやすくできる。

【0 1 6 0】

以下、本第 7 の実施形態の詳細について以下に述べる。

【0 1 6 1】

システム構成図は第 6 の実施形態のカメラサーバ構成の候補編集プログラム 3 4 1 1 5 を、図 2 9 に示す如く、候補編集プログラム 3 5 1 1 5 に変更した点である。

【0 1 6 2】

本第 7 の実施形態の動作について詳細に説明する。なお、動作設定プログラム 3 0 1 1 3 の動作については第 6 の実施形態と同様である。また、録画実行プログラム 1 1 4 の動作については第 1 乃至第 6 の実施形態と同様である。また、ページ選択プログラム 3 4 1 1 6 の動作については第 6 の実施形態と同様であるとし、その説明は省略する。

【0 1 6 3】

図 3 0 に本第 7 の実施形態の画像編集の流れの例を示す。図中、3 5 0 0 0 は候補リストを重要度にしたがってリスト表示するものである。

【0 1 6 4】

候補編集プログラム 3 5 1 1 5 の動作の流れは、第 5 の実施形態の図 2 2 のフローチャートのステップ S 3 3 1 0 1 の候補リストの表示処理が変更することで対処できる。

【0 1 6 5】

そこで、以下では候補リストの表示処理の動作の流れを図 3 1 のフローチャートで説明する。

【0 1 6 6】

候補リストの表示処理に入ると、ステップ S 3 5 0 0 1 で、候補リストを第 6 の実施形態の図 2 6 のステップ S 3 4 1 0 8 で作成された、たとえば図 2 8 に示されたような候補重要度リスト 3 4 0 0 0 に基づき、第 3 の実施形態の図 1 7 のステップ S 3 1 2 0 2 と同様の重要度の算出に基づき、候補リストの順序を入れ換える。

【0167】

そして、ステップS35002で、その候補リストを表示する。

【0168】

こうすることによって、候補編集プログラム35115で編集ページ選択のための候補リスト画面35000が、重要度に仕掛けて表示されることにより、より好適な候補ページを元に編集することがし易くなり、運用のコストを下げることができる。

【0169】

上記説明では、カメラによって自動撮影蓄積された画像を置き換える例で、部分修正に対して、重要度は編集回数、賛同回数を考慮して重要度を算出することを述べたが、前述のようになんらかの方法であらかじめ用意した部分画像の候補から選択する場合に適用しても良い。

【0170】

さらには、画像を分割し、それぞれの部分に修正を加える場合に、適用しても良い。

【0171】

この場合には、編集より賛同の方を大きな重みづけをしても良い。

【0172】

＜第8の実施形態＞

上記第1の実施形態では候補ページで画像が均一に表示されたが、これに限るわけではない。

【0173】

以下、本第8の実施形態を詳細に説明する。

【0174】

システム構成図は図1に示した第1の実施形態におけるカメラサーバ構成図の候補編集プログラム115を、図32に示す如く、候補編集プログラム40115に変更した点と、第1の実施形態の図1のメモリ101の中に、公開禁止設定プログラム40117を加えた点である。

【0175】

また、動作設定プログラム113、録画実行プログラム114及びページ選択プログラム116の動作については第1の実施形態と同様である。但し、録画データには、撮影ポジション、撮影時刻の情報がそれぞれ記録されるものとする。

次に、公開禁止設定プログラム40117の動作設定の例を図33に示し、公開禁止設定プログラムの流れを図34のフローチャートを用いて説明する。

【0176】

公開禁止プログラムは、操作者の要求に応じて起動される。まず、既存の設定データ（図示せず）が補助記憶装置より読み込まれ（ステップS41101）、図33の41001のような設定ページ画面が表示される（ステップS41102）。この画面ではフィールド41002、フィールド41003とで、全ポジション共通の公開禁止開始時刻と、公開禁止終了時刻とを入力できる。ポジションごとの設定では、第1プリセットポジションの公開禁止開始時刻と、公開禁止終了時刻は、それぞれ、フィールド41004、41005で入力できる。また、フィールド41006では、時間に関係なく公開禁止ポジションを設定できる。同様に、本第8の実施形態では5つまでのプリセットポジションについて公開禁止設定ができる。もちろん、この数はもっと増やすことも可能である。以下、設定保存ボタン41007が押されるまで、ステップS41104の設定入力処理を繰り返し、設定保存ボタン41007が押されると判断した場合（ステップS41103）、ステップS41105に進む。

【0177】

ステップS41104の設定入力処理では、各種のフィールドへのデータ入力をチェックし、入力データの表示を変更する。図33の例では、全ポジション共通の公開禁止開始時刻、公開禁止終了時刻、及び、第1プリセットポジションの公開禁止時刻情報が設定されている。また、第4プリセットポジションでは、時間が指定されておらず、且つ公開しないという指定がされているので、時間に関係なくこのポジションの画像を公開しないという設定がされたことになる。

【0178】

ステップS41105では、表示されている各情報が補助記憶装置に書き込まれる。例えば、図33の例では、全てのプリセットポジションについて、10時

0 0 分から 1 0 時 1 0 分までの間の画像は公開しない、これに加えて第 1 プリセットポジションの 1 0 時 5 0 分から 1 1 時 0 0 分までの間の画像、及び、第 4 プリセットポジションの全ての画像を公開しない、という設定が保存される。

【0 1 7 9】

なお、本実施形態では公開禁止設定プログラム 4 0 1 1 7 が操作者の要求に応じて起動される場合について説明したが、この場合、既に録画実行プログラム 1 1 4 が実行されている場合もある。予め、公開禁止ポジション、公開禁止時間が分かっている場合には、動作設定プログラム 1 1 3 実行時に動作設定プログラムの中から公開禁止設定プログラムを呼び出すようにしておけば、録画実行プログラムの実行時にこの設定が反映され、公開禁止ポジション、公開禁止時間については画像の取得蓄積を行わないようにすることもできる。こうすることによって、無駄なメモリを消費することを防ぎ、運用のコストを下げることができる。また、画像と共に撮影ポジションや撮影時刻をも記憶保存することも不要になる。以上で、公開禁止設定プログラムの説明を終える。

【0 1 8 0】

次に画像編集の流れを図 3 5 に示す。

【0 1 8 1】

同図は先に説明した第 1 の実施形態の図 4 にボタン 4 2 0 0 1 を加え、差替画像選定の取消しが出来るようにしたものである。

【0 1 8 2】

候補編集プログラム 4 0 1 1 5 の動作の流れは図 3 6 に示す通りであり、第 1 の実施形態の図 8 のフローチャートとほぼ同じであるが、ステップ S 4 2 1 0 2 の候補ページ表示処理と、ステップ S 4 2 1 0 5 の差替画像選定処理が変更され、ステップ S 4 2 1 0 8 の設定読み込み処理と、ステップ S 4 2 1 0 9 の公開禁止画像チェック処理がこの順で先頭に加わった点異なる。

【0 1 8 3】

図 3 6 のステップ S 4 2 1 0 1, S 4 2 1 0 3, S 4 2 1 0 4, S 4 2 1 0 6, S 4 2 1 0 7 は、それぞれ、第 1 の実施形態の図 8 におけるステップ S 8 0 1, S 8 0 3, S 8 0 4, S 8 0 6, S 8 0 7 と同様である。

【0184】

ステップS42104で画像選択が行われた際に、ステップS42105で図35の42001に示すようなボタンをクリックし、画像選定の取消しがされた処理を第1の実施形態の図8のS805に加える。

【0185】

図37は、本第8の実施形態における公開リスト42201の内容の一例を示している。

【0186】

ステップS42108の設定読み込み処理では、公開禁止設定プログラム40117で生成された設定データ（HD106に格納されている）が読み込まれ、公開禁止画像チェック処理が行われる（ステップS42109）。すなわち、各画像に対して、それが公開禁止か否かをポジション、撮影時刻により判断し、公開できるものは公開リストの欄にOKを、公開禁止のものはNGを入れる。

【0187】

そして、ステップS42102の候補ページの表示処理と、ステップS42105の差替画像選定処理では、前述の公開禁止画像チェック処理の結果に基づき、公開禁止画像が区別して表示される。例えば、図35の例では、変更画像選択画面411の画像421-2-1や差替画像選定画面412の画像421-21, 421-2-4のように公開禁止画像を容易に区別可能な表示を行う。

【0188】

本第8の実施形態では、予め公開禁止の条件が設定されると、候補ページが表示される際に、公開禁止の画像を明示する。こうすることによって、個々の画像に対して公開可能であるかどうかを区別でき、画像一覧ページの編集の効率を上げることができる。

【0189】

また、不用意に公開すべきでない画像がアップロードされることが防止される。

【0190】

<第9の実施形態>

第 3 乃至第 7 の実施形態では候補ページの編集や賛同、及び画像ごとの選定や賛同を用いて重要度計算を行っていたが、これに限るわけではない。

【0 1 9 1】

本第 9 の実施形態では、公開禁止画像情報を用いて候補ページの優先度を変更する。

【0 1 9 2】

こうすることによって、公開禁止画像を含んだ画像一覧ページが一般公開されることを防ぐことができる。

【0 1 9 3】

本第 9 の実施形態の詳細について以下に述べる。

【0 1 9 4】

システム構成図は第 7 の実施形態のカメラサーバ構成の候補編集プログラム 3 5 1 1 5 とページ選択プログラム 3 4 1 1 6 を、図 3 8 に示す如く、それぞれ、候補編集プログラム 4 3 1 1 5 と、ページ選択プログラム 4 3 1 1 6 に変更したものである。また、第 7 の実施形態のカメラサーバの構成の HD 1 0 6 の候補重要度リスト 3 4 0 0 1 を画像重要度リスト 4 4 0 0 1 に変更した。

【0 1 9 5】

また、動作設定プログラム 3 0 1 1 3 及び録画実行プログラム 1 1 4 の動作については第 7 の実施形態と同様である。

【0 1 9 6】

次に本第 9 の実施形態の動作について詳細に説明する。

【0 1 9 7】

候補編集プログラム 4 3 1 1 5 の動作の流れは、第 6 の実施形態の図 2 6 のフローチャートとほぼ同様であるが、図 3 9 に示す如く、ステップ S 3 4 1 0 5 が差替画像選定記録処理 S 4 4 1 0 5 に変更され、設定読み込み処理（ステップ S 4 4 1 0 8）と、公開禁止画像チェック処理 S 4 4 1 0 9 がこの順で先頭に加わったものである。

【0 1 9 8】

第 9 の実施形態における画像重要度リスト 4 4 0 0 1 の一例を図 4 0 に示す。

このリストは、画像重要度リスト34001に公開欄を加えたものである。

【0199】

なお、設定読み込み処理（ステップS44108）は第8の実施形態の設定読み込み処理と同じであり、公開禁止処理（ステップS44109）も第8の実施形態の公開禁止処理とほぼ同じである。更新するリストが、前者は公開リスト42201であったが、本第9の実施形態の公開禁止画像チェック処理S44109では、画像重要度リスト44001を用いる。もっとも、公開欄を更新することには変わりはない。

【0200】

また、差替え画像選定記録処理（ステップS44105）も、画像重要度リスト44001を用いるところが異なるのみで、選択欄、賛同欄を更新することには変わらない。

【0201】

図40の例では、画像120-1-1は、選択回数1回、賛同回数1回、またこの画像が公開可能であることを示している。同様に画像120-3-1の画像は選択回数2回、賛同回数0回で公開禁止であり、120-1-2は選択回数も賛同回数も0であり公開禁止であることを記録している。この例では説明のため、公開可否情報として「OK」「NG」を記録しているが、それぞれ、OKなら0、NGなら-100として記録すれば、画像重要度リストから画像ごとの重要度を計算により算出することができる。すなわち、ページ選択プログラム43116では、第6、第7の実施形態と同様の動作をするが、画像ごとの重要度を計算するときに、公開禁止かどうかという点を加算（減算）するところが異なる。

【0202】

以上のようにすることによって、公開禁止条件にあてはまる画像ページは、選定されにくくなり、選定作業が効率化できる。

【0203】

<第10の実施形態>

本10の実施形態では、ページ選択プログラム34116中のステップS31207ページアップロード処理（第3図参照）の処理が異なる。ページアップロ

ードに先立って、各ポジションの画像が公開禁止になっているかどうかを、画像重要度リスト44001を見て判断し、公開禁止となっていたら所定の画像と入れ替える。例えば予め用意された「この画像は公開できません」という文章の画像と入れ替える。その後、アップロードが行われる。例えば第2ポジションが公開禁止と設定された場合、図41の画面45001のような表示が行われる。

【0204】

以上のようにすることで、公開禁止設定されたものは、たとえ編集時にピックアップされても公開されなくなり、安全な運営ができるようになる。

【0205】

なお、上記例では、画像の差替えを行ったが、単純に公開禁止画像はアップロードするページから削除しても良い。

【0206】

また、公開禁止だけでなく、賛同も編集もされていない画像も同時に取り扱っても良い。

【0207】

以上説明した各実施形態では、カメラサーバーにおける処理であったが、その装置は複数の機器から構成されるシステムでも、一つの機器からなる装置であっても構わない。

【0208】

また、本発明の目的は、前述した各実施形態の機能を実現するソフトウェアのプログラムコードを記録した記憶媒体（または記録媒体）を、システムあるいは装置に供給し、そのシステムあるいは装置のコンピュータ（またはCPUやMPU）が記憶媒体に格納されたプログラムコードを読み出し実行することによっても、達成されることは言うまでもない。この場合、記憶媒体から読み出されたプログラムコード自体が前述した実施形態の機能を実現することになり、そのプログラムコードを記憶した記憶媒体は本発明を構成することになる。また、コンピュータが読み出したプログラムコードを実行することにより、前述した実施形態の機能が実現されるだけでなく、そのプログラムコードの指示に基づき、コンピュータ上で稼働しているオペレーティングシステム(OS)などが実際の処理の一部または

全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も含まれることは言うまでもない。

【0209】

さらに、記憶媒体から読み出されたプログラムコードが、コンピュータに挿入された機能拡張カードやコンピュータに接続された機能拡張ユニットに備わるメモリに書込まれた後、そのプログラムコードの指示に基づき、その機能拡張カードや機能拡張ユニットに備わるCPUなどが実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も含まれることは言うまでもない。

【0210】

以上説明したように、実施形態によれば、有志によって作成された画像ページから好適な画像ページが一般公開され、運用コストを下げることができる。

【0211】

特に、第2の実施形態においては、所定時間経過しても承認されない場合に自動的に承認されることで、候補ページが一般公開され、運用コストを下げるができる。

【0212】

また、第3の実施形態においては、所定の自動選定時間になるまでに承認者が承認しない場合、有志によって編集された候補ページ案のうちもっとも良く編集されたと思われるページ案をアップロードさせることで、好適な画像ページが一般公開され、運用コストを下げることができる。

【0213】

また、第4の実施形態においては、もっとも多くの他の候補ページを利用できる有志が編集したページ案を承認させることで好適な画像ページが一般公開され、運用コストを下げることができる。

【0214】

また、第5の実施形態においては、もっとも多くの他の候補ページを利用できる有志が編集して、そのまま賛同する人も多かったページ案を承認させることで好適な画像ページが一般公開され、運用コストを下げることができる。

【0215】

また、第6の実施形態においては、もっとも多くの他の候補ページを利用できる有志が編集して、そのまま候補ページを賛同する人も多く、かつ候補ページを作成する際に多く選択あるいは賛同された画像を含む候補ページ案を承認させることで好適な画像ページが一般公開され、運用コストを下げるができる。

【0216】

また、第6の実施形態においては、候補ページを作成する際に賛同されていない画像を含む候補ページ案の重要度を下げることで、より好適な画像ページが一般公開され、運用コストを下げるができる。

【0217】

また、第7の実施形態においては、候補リストが重要度にしがって表示されることにより、より好適な候補ページを元に編集することがし易くなり、好適な画像ページが一般公開され、運用コストを下げるができる。

【0218】

また、撮影アングルごとに、画像選択するのではなく、ページの部分や画像の部分編集する場合に適用すると、担当別の編集をしながら、また、同一部分を複数人で担当しても全体として点数づけでき、良い画像やページを共同して作成することが可能になる。

【0219】

特に、第8の実施形態においては、候補画像一覧ページ作成の際に、公開禁止画像が明確に区別表示されることで、編集作業の負担を大きく減らすことができる。

【0220】

また、第9の実施形態においては、禁止されたポジションや時間の画像が選択されている候補ページについて、自動選定の重要度を落とすことで、公開禁止画像を含んだ画像一覧ページが一般公開されることを防ぐことができる。

【0221】

また、第10の実施形態においては、候補ページが承認され一般公開される際に、公開禁止画像について、自動的に好適な画像に差替え、画像一覧ページの見

栄えを良くすることができる。

【0222】

また更に、第10の実施形態10においては、候補ページが承認され一般公開される際に、公開禁止画像について削除することで、画像一覧ページの見栄えを良くすることができる。そして、不用意に公開禁止した画像が編集時にピックアップされても公開が阻止され、安全性が高まる。

【0223】

【発明の効果】

以上説明したように本発明によれば、ネットワーク上で発信するための文書に含ませる画像を、簡単に更新でき、しかも、所望とする撮影条件で撮影された画像について非公開として設定可能になる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

第1の実施形態におけるカメラサーバの構成図である。

【図2】

本発明が適用されるシステム構成図である。

【図3】

カメラサーバの撮影スケジュールを設定する動作設定を説明する図である。

【図4】

画像編集の流れを説明する図である。

【図5】

ページ承認の流れを説明する図である。

【図6】

動作設定プログラムの流れを説明するフローチャートである。

【図7】

録画実行プログラムの流れを説明するフローチャートである。

【図8】

候補編集プログラムの流れを説明するフローチャートである。

【図9】

ページ選択プログラムの流れを説明するフローチャートである。

【図 1 0】

第 2 の実施形態におけるカメラサーバの構成図である。

【図 1 1】

第 2 の実施形態におけるカメラサーバの撮影スケジュールを設定する動作設定を説明する図である。

【図 1 2】

第 2 の実施形態における動作設定プログラムの流れを説明するフローチャートである。

【図 1 3】

第 2 の実施形態におけるページ選択プログラムの流れを説明するフローチャートである。

【図 1 4】

第 3 の実施形態におけるカメラサーバの構成図である。

【図 1 5】

第 3 の実施形態における候補編集プログラムの処理内容を示すフローチャートである。

【図 1 6】

第 3 の実施形態における候補重要度リストの内容を示す図である。

【図 1 7】

第 3 の実施形態におけるページ選択プログラムの処理内容を示すフローチャートである。

【図 1 8】

第 4 の実施形態におけるカメラサーバの構成図である。

【図 1 9】

第 4 の実施形態における候補重要度リストの内容を示す図である。

【図 2 0】

第 5 の実施形態におけるカメラサーバの構成図である。

【図 2 1】

第 5 の実施形態における画像編集の流れの例を示す図である。

【図 2 2】

第 5 の実施形態における候補編集プログラムの処理内容を示すフローチャートである。

【図 2 3】

第 5 の実施形態における候補重要度リストの内容を示す図である。

【図 2 4】

第 6 の実施形態におけるカメラサーバの構成図である。

【図 2 5】

第 6 の実施形態における画像編集の流れの例を示す図である。

【図 2 6】

第 6 の実施形態における候補編集プログラムの処理内容を示すフローチャートである。

【図 2 7】

第 6 の実施形態における画像重要度リストの内容を示す図である。

【図 2 8】

第 6 の実施形態における候補重要度リストの内容を示す図である。

【図 2 9】

第 7 の実施形態におけるカメラサーバの構成図である。

【図 3 0】

第 7 の実施形態における画像編集の流れの例を示す図である。

【図 3 1】

第 7 の実施形態の候補リストの表示処理の内容を示すフローチャートである。

【図 3 2】

第 8 の実施形態におけるカメラサーバの構成図である。

【図 3 3】

第 8 の実施形態における公開禁止設定の一例を示す図である。

【図 3 4】

第 8 の実施形態における公開禁止設定処理の内容を示すフローチャートである

【図 3 5】

第 8 の実施形態における画像編集の流れの例を示す図である。

【図 3 6】

第 8 の実施形態の候補編集処理の内容を示すフローチャートである。

【図 3 7】

第 8 の実施形態の公開リストの内容の内容の一例を示す図である。

【図 3 8】

第 9 の実施形態におけるカメラサーバの構成図である。

【図 3 9】

第 9 の実施形態における候補編集処理の内容を示すフローチャートである。

【図 4 0】

第 9 の実施形態における画像重要度リストの内容の一例を示す図である。

【図 4 1】

第 1 0 の実施形態で作成されたページの例を示す図である。

【符号の説明】

1 0 0 カメラサーバ

1 0 1 メモリ

1 0 6 補助記憶装置

1 1 3 動作設定プログラム

1 1 4 録画実行プログラム

1 1 5 候補編集プログラム

1 1 6 ページ選択プログラム

1 2 0 - 1 - 1, 1 2 0 1 - 1 - 2, ..., 1 2 0 - n - m 画像データ

4 0 1, 4 0 2 画像データ

3 0 1 設定ページ画面

4 1 0 候補リスト画面

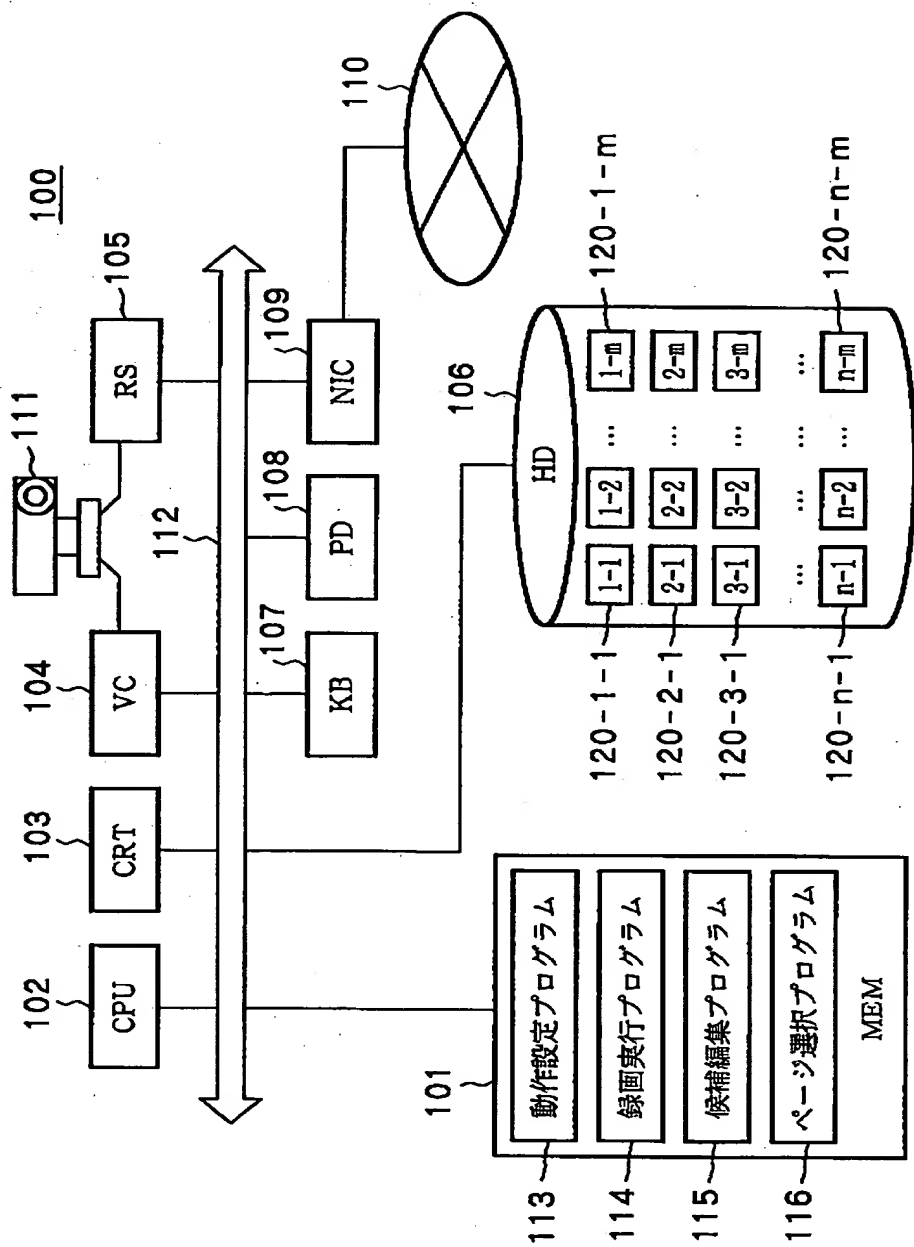
4 1 1 変更画像選択画面

4 1 2 差し替え画像選定画面

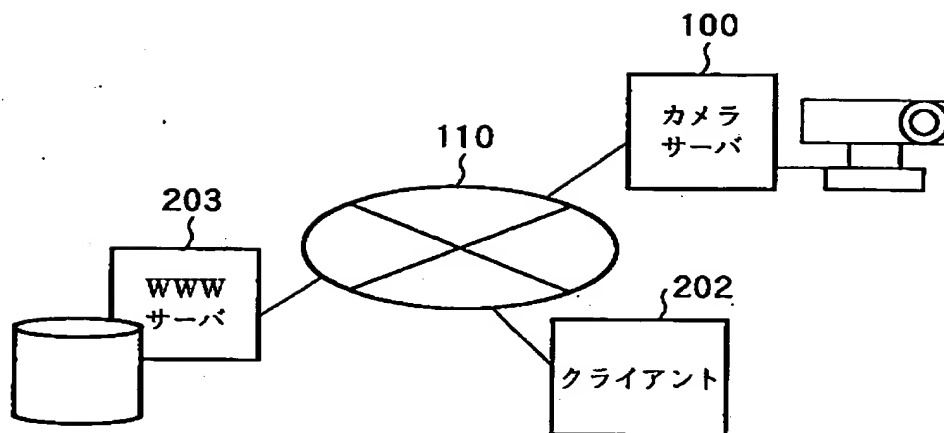
- 5 0 2 候補ページ選択画面
- 5 0 3 ページ承認処理画面
- 3 0 0 0 0 自動選定時刻フィールド
- 3 1 0 0 0 実施形態 3 の候補重要度リスト
- 3 2 0 0 0 実施形態 4 の候補重要度リスト
- 3 3 0 0 0 実施形態 5 の候補重要度リスト
- 3 3 0 0 1 候補ページを賛同するボタン
- 3 4 0 0 0 実施形態 6 の候補重要度リスト
- 3 4 0 0 1 画像重要度リスト
- 3 4 0 0 2 選択された画像をそのまま賛同するボタン
- 3 5 0 0 0 候補リストを重要度にしたがって表示するリスト
- 4 1 0 0 1 実施形態 8 の公開禁止設定画面
- 4 2 0 0 1 実施形態 8 の差替画像選定を取消すボタン
- 4 4 0 0 1 実施形態 9 の画像重要度リスト
- 4 5 0 0 1 実施形態 1 0 の画像一覧ページ画面

【書類名】 図面

【図 1】



【図 2】



【図 3】

画像記録設定

撮影開始時刻 10:00 から

撮影終了時刻 11:40 まで

撮影間隔 20 分毎

画像位置設定

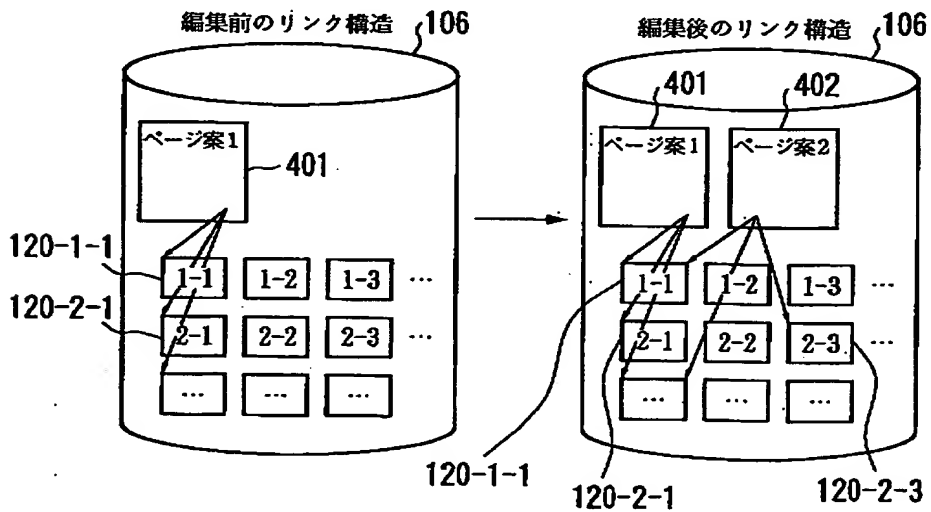
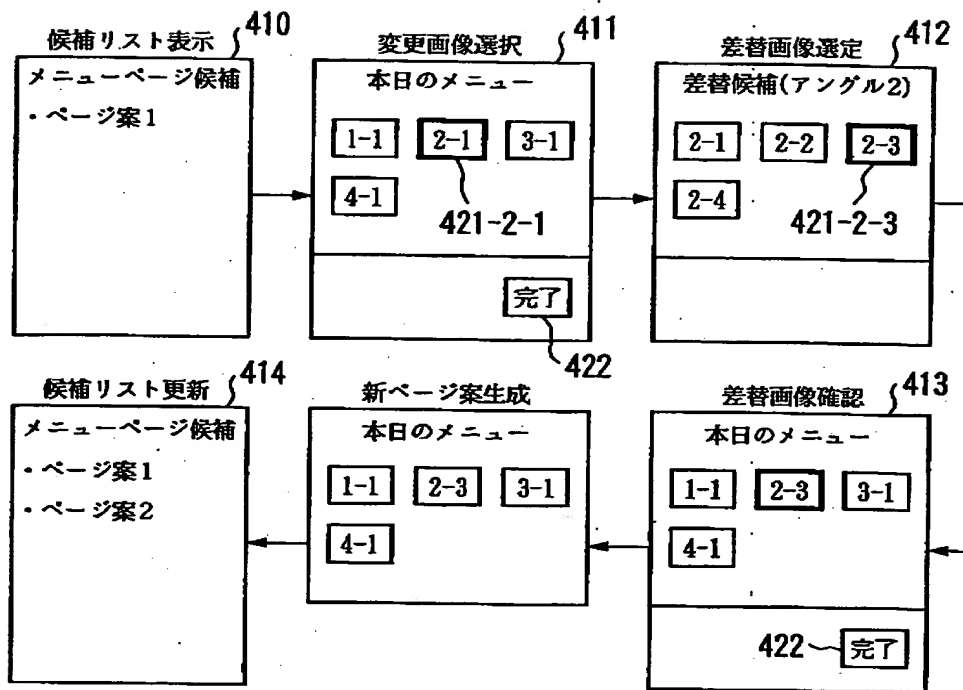
プリセット番号	1	2	3	4	5
パン	9.72	12.00	21.50	11.30	
チルト	0.00	0.00	0.00	0.00	
ズーム	46.80	46.80	46.80	40.00	

306-1p
306-1t
306-1z
306-2p
306-2t
306-2z

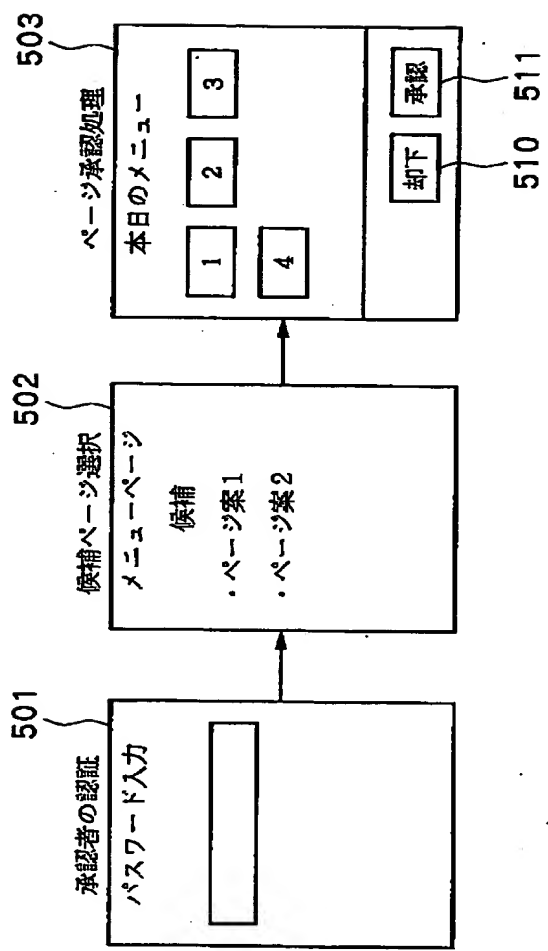
設定保存

取り消し

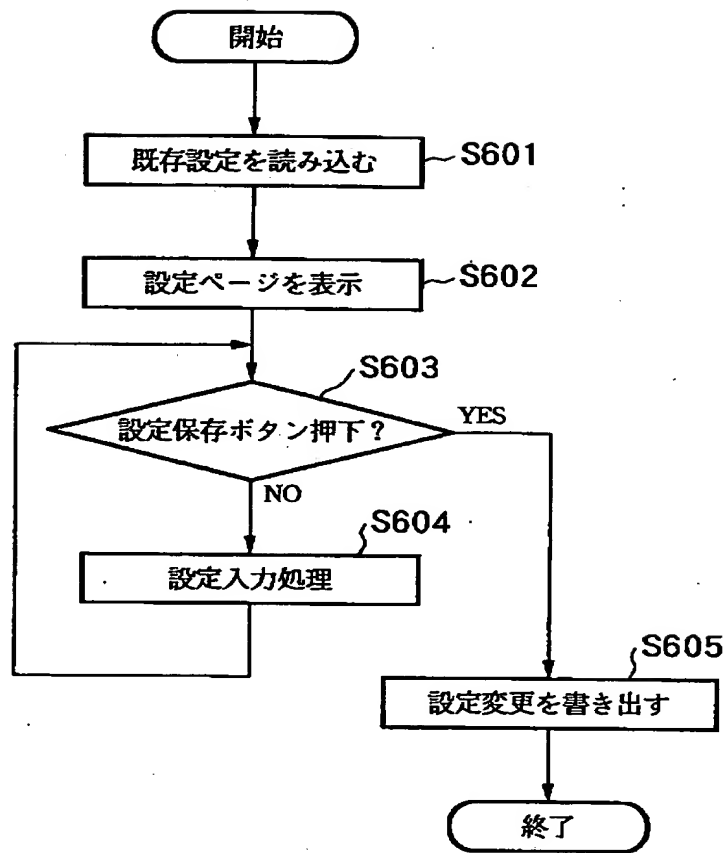
【図 4】



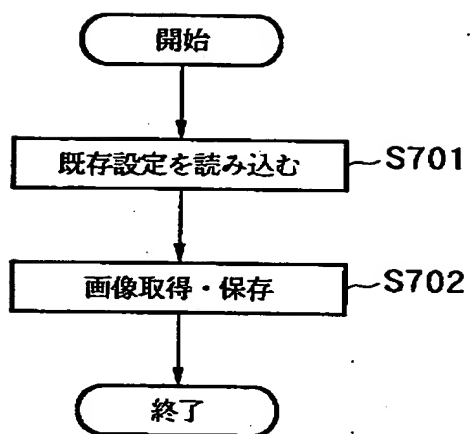
【図 5】



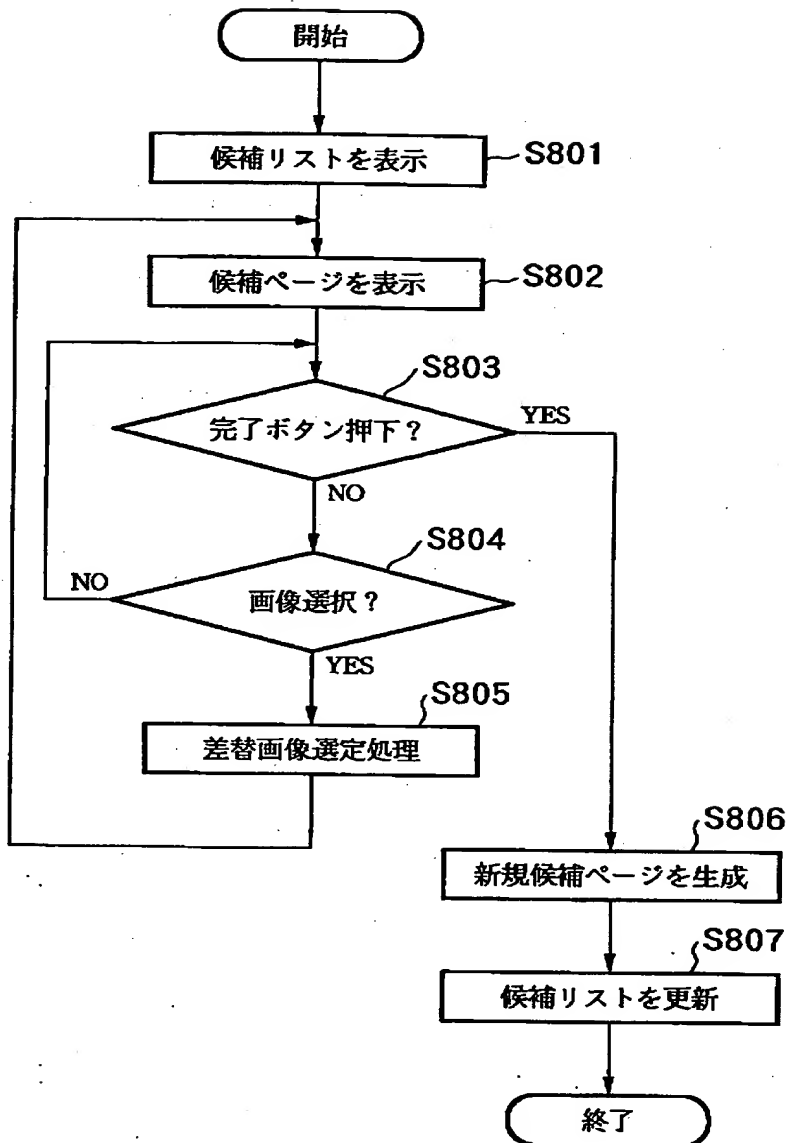
【図 6】



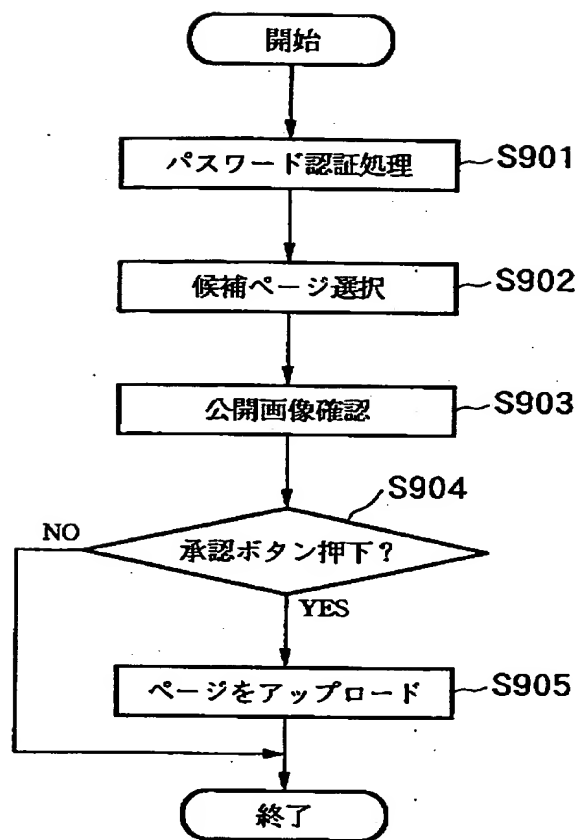
【図 7】



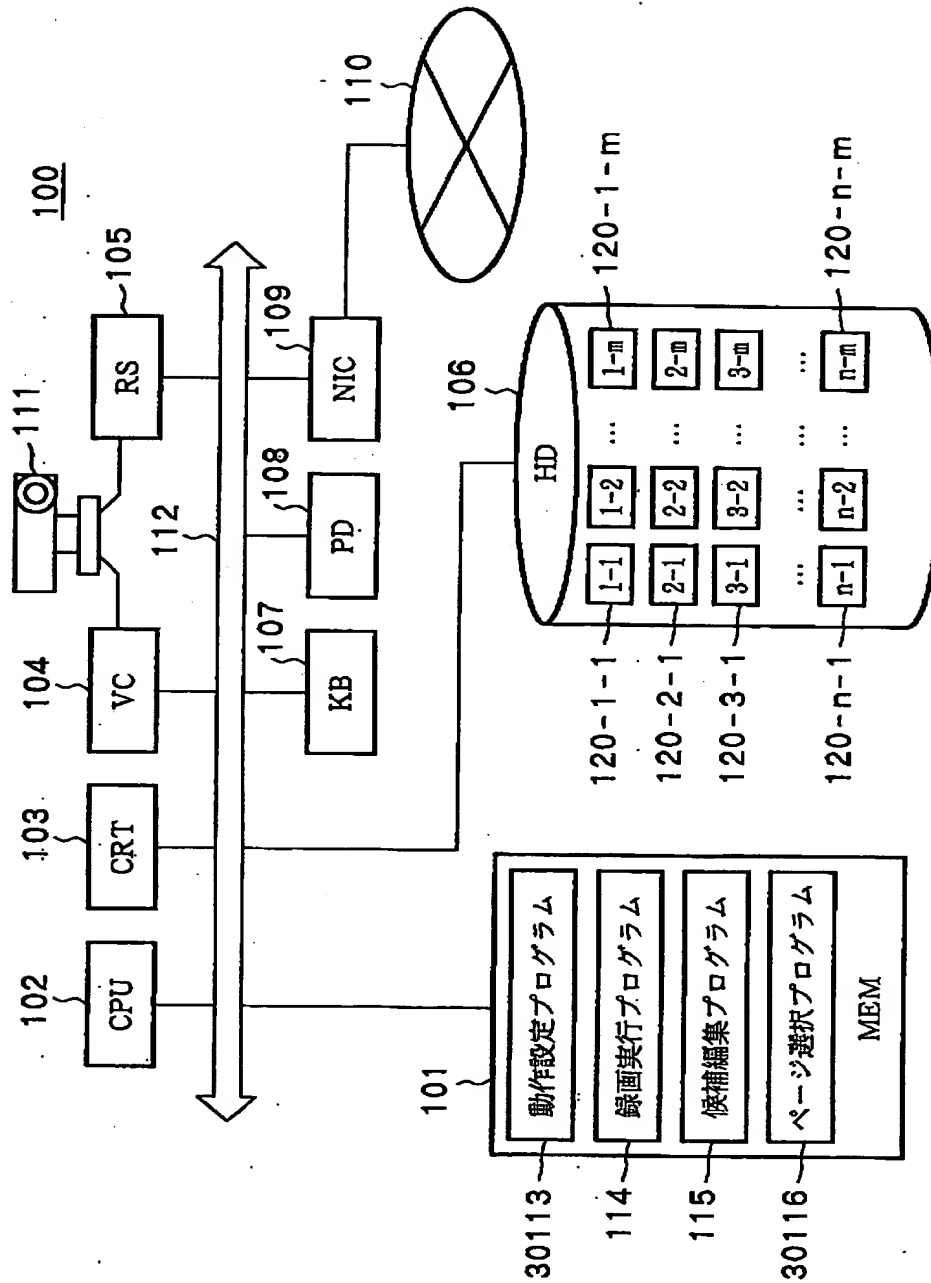
【図 8】



【図 9】



【図 1 0】



【図 1 1】

301

画像記録設定

302

撮影開始時刻

10:00

から

304

20

分毎

撮影終了時刻

11:40

まで

撮影間隔

303

自動選定時刻

12:00

30000

画像位置設定

プリセット番号

1

2

3

4

5

パン

9.72

12.00

21.50

11.30

チルト

0.00

0.00

0.00

0.00

306-1p

306-1t

ズーム

46.80

46.80

46.80

40.00

306-2p

306-2t

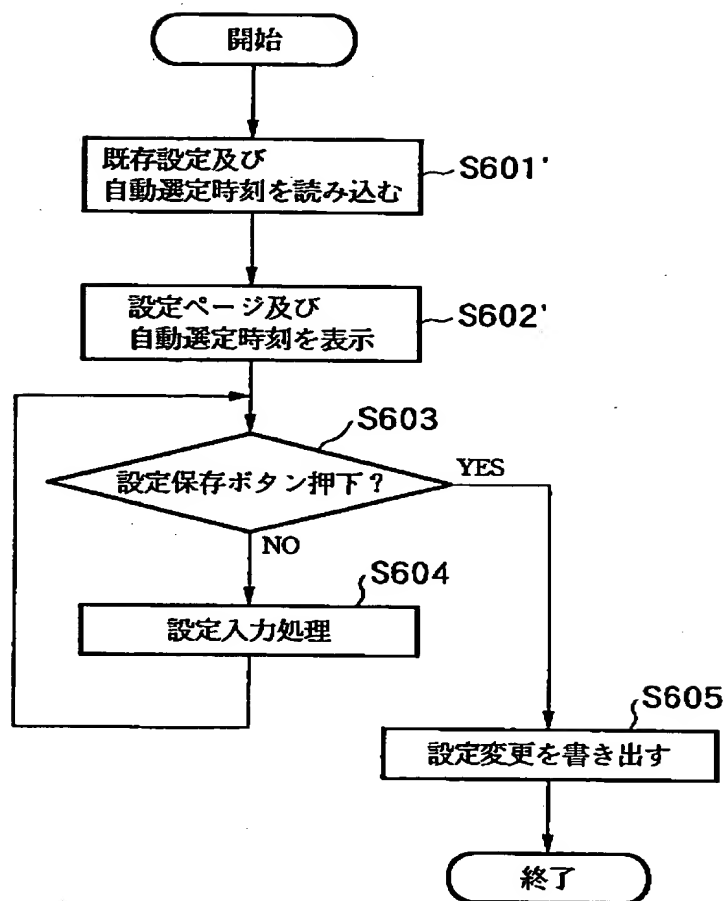
306-2z

307

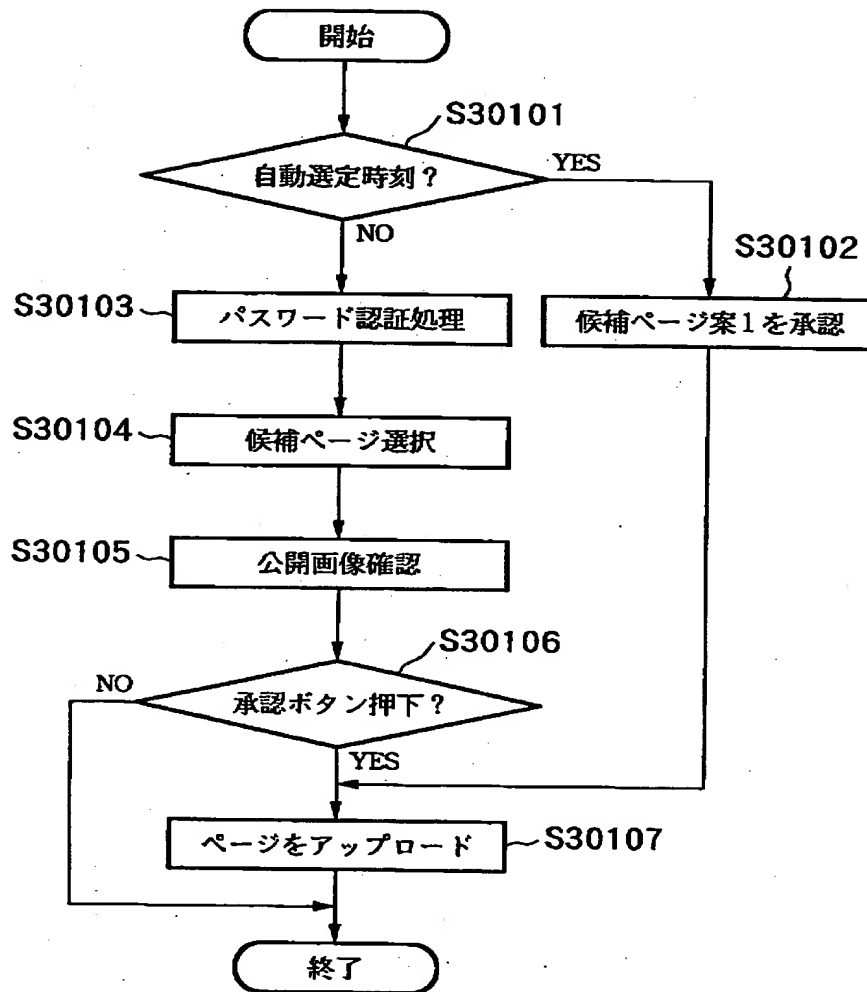
設定保存

取り消し

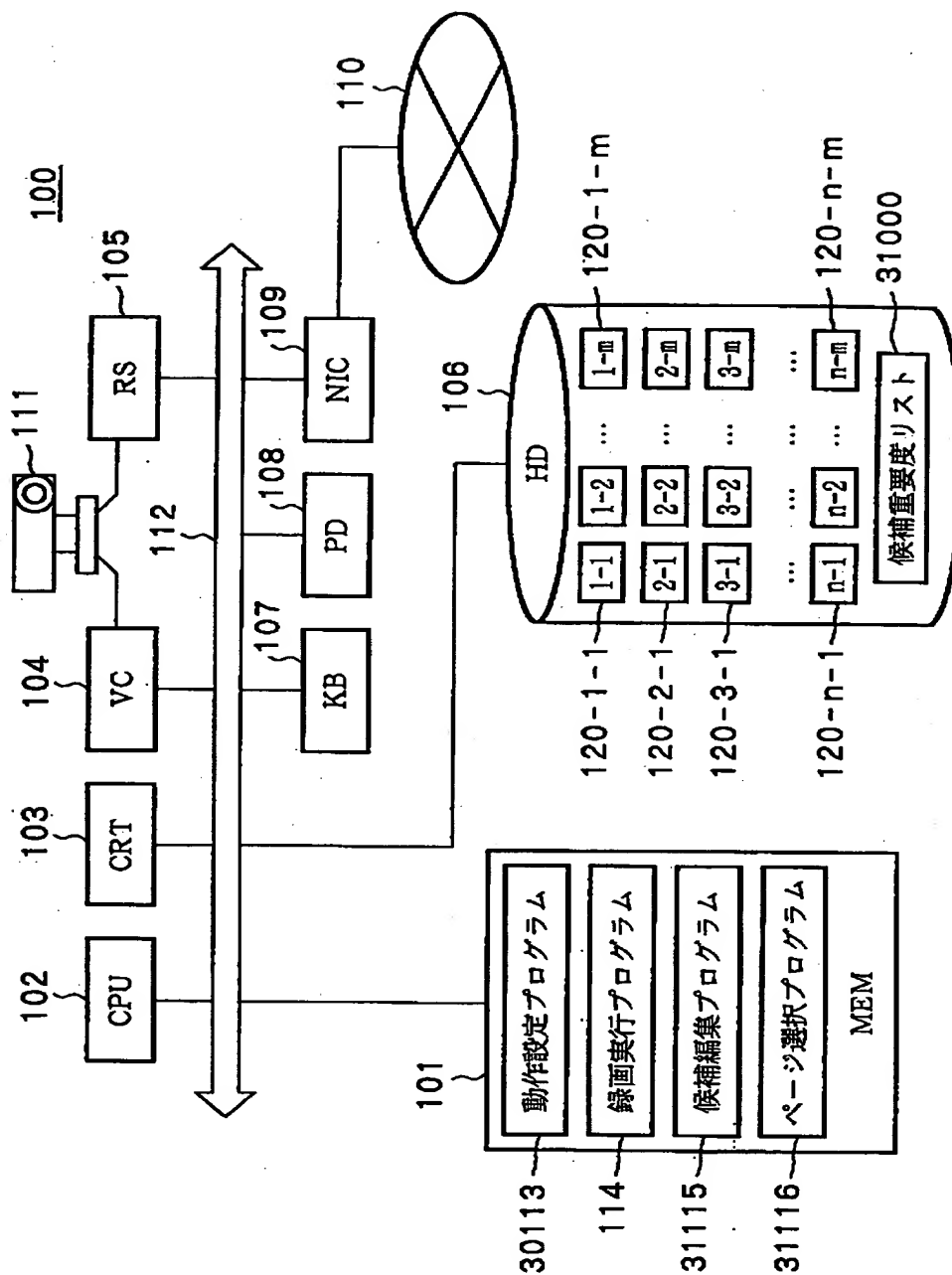
【図 1 2】



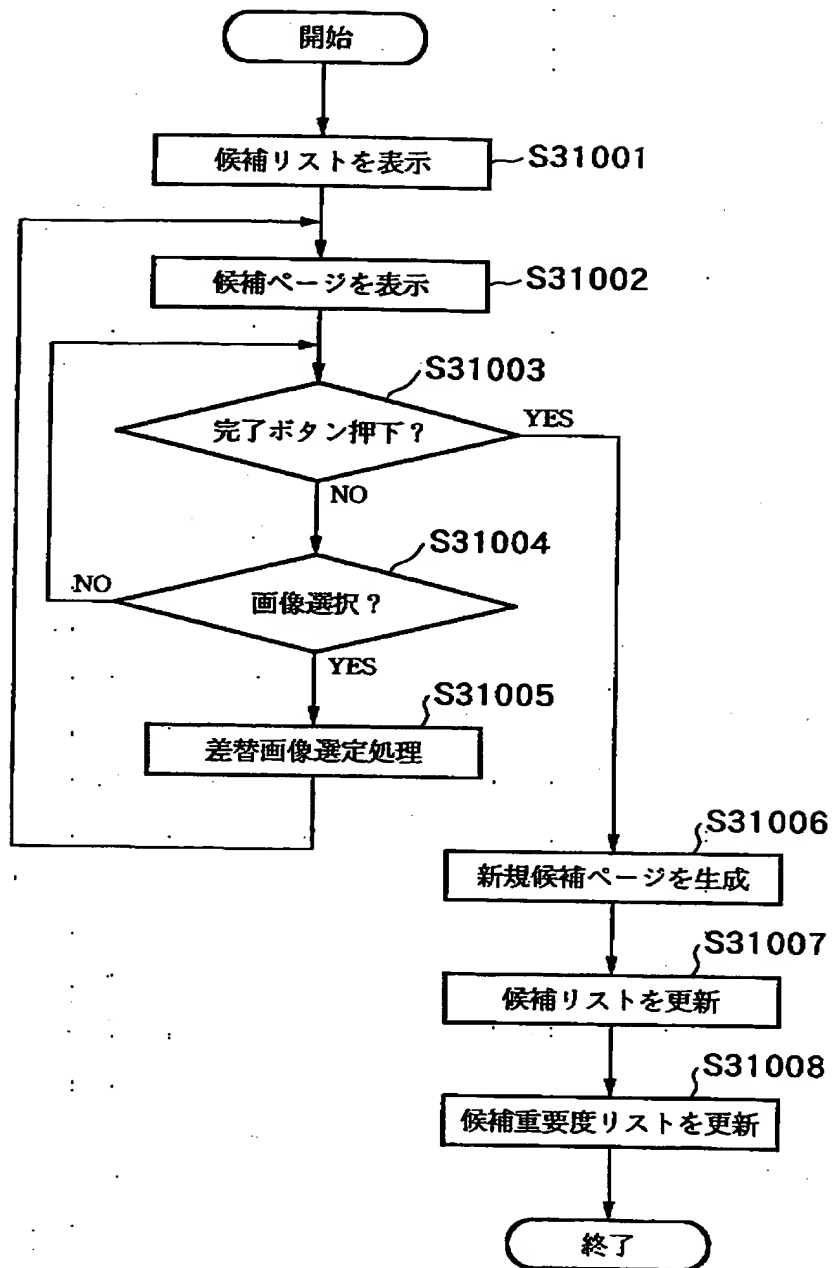
【図 1 3】



【図 1 4】



【図 1 5】

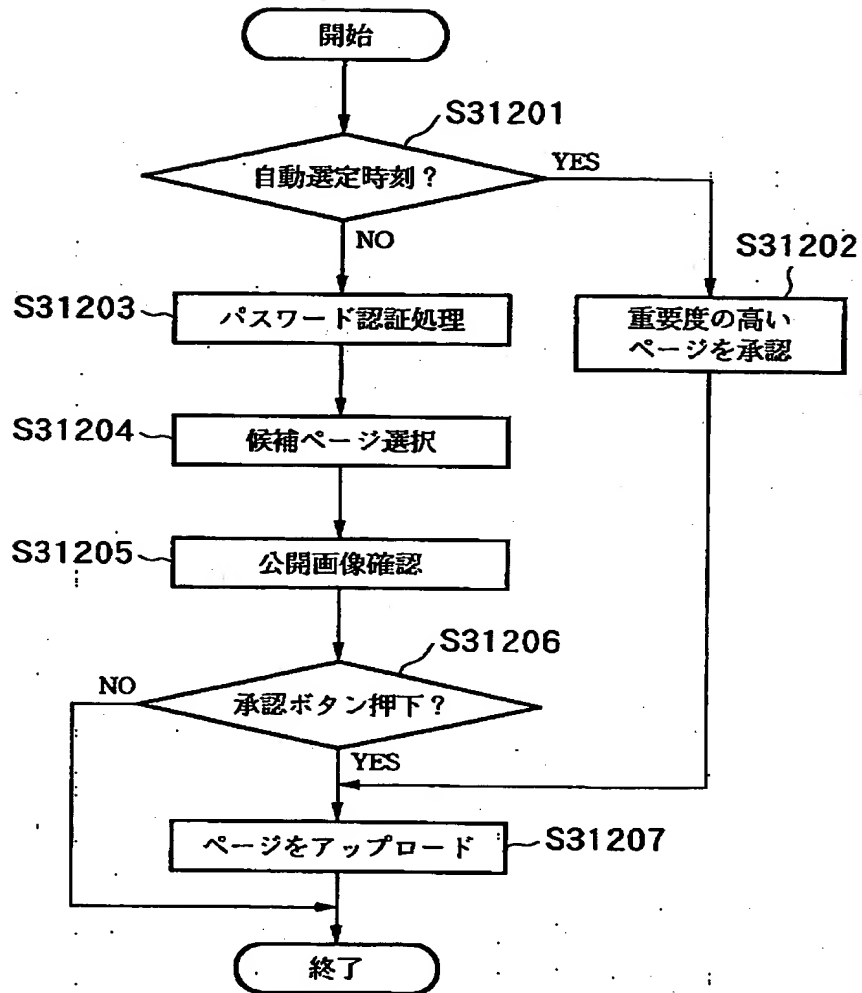


【図 1 6】

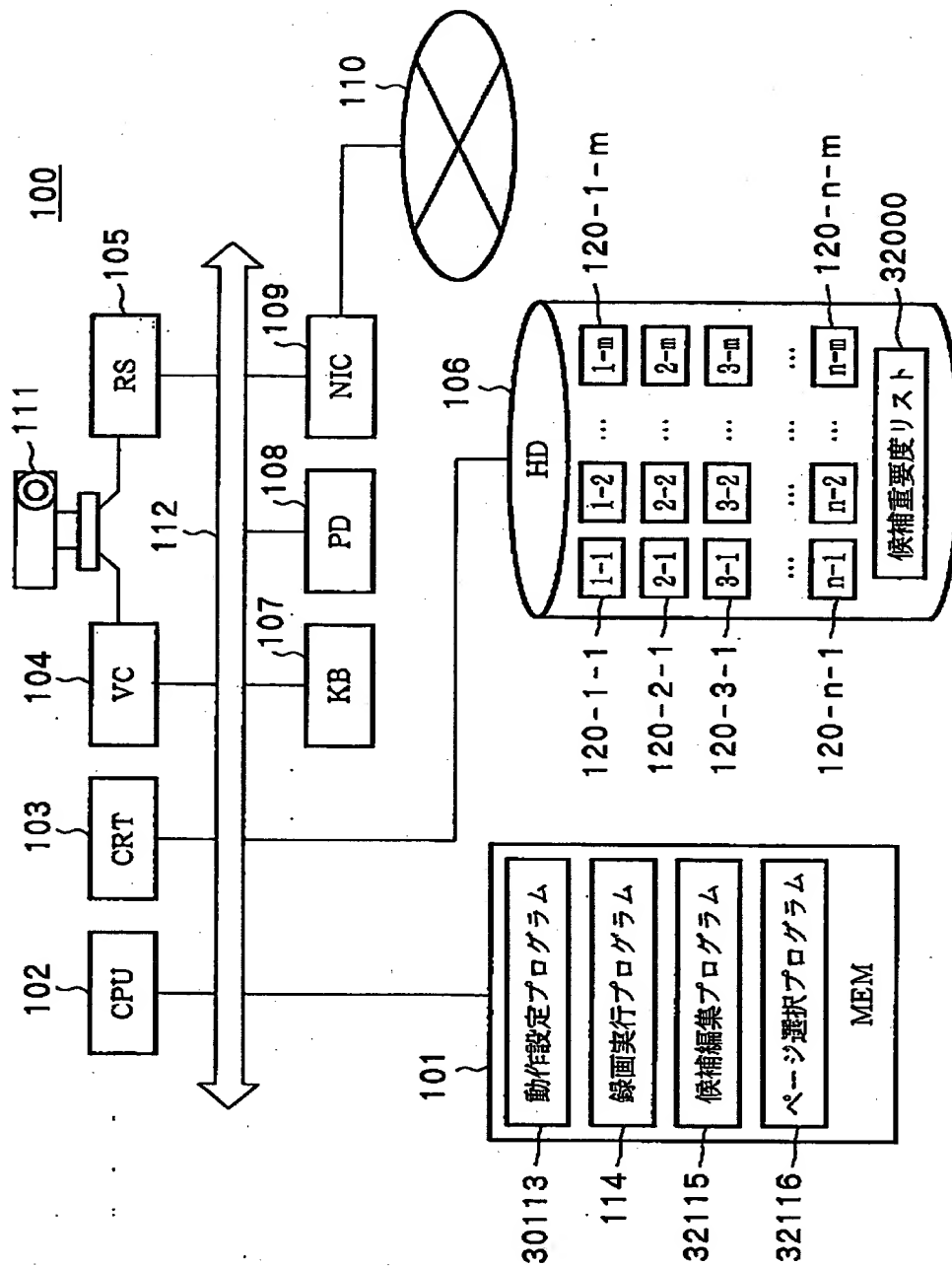
31000
}

ページ 1	
ページ 2	ページ 1 →
ページ 3	ページ 1 → ページ 2
ページ 4	ページ 1 → ページ 2 → ページ 3
ページ 5	ページ 1 → ページ 2
⋮	⋮

【図 17】



【図 18】

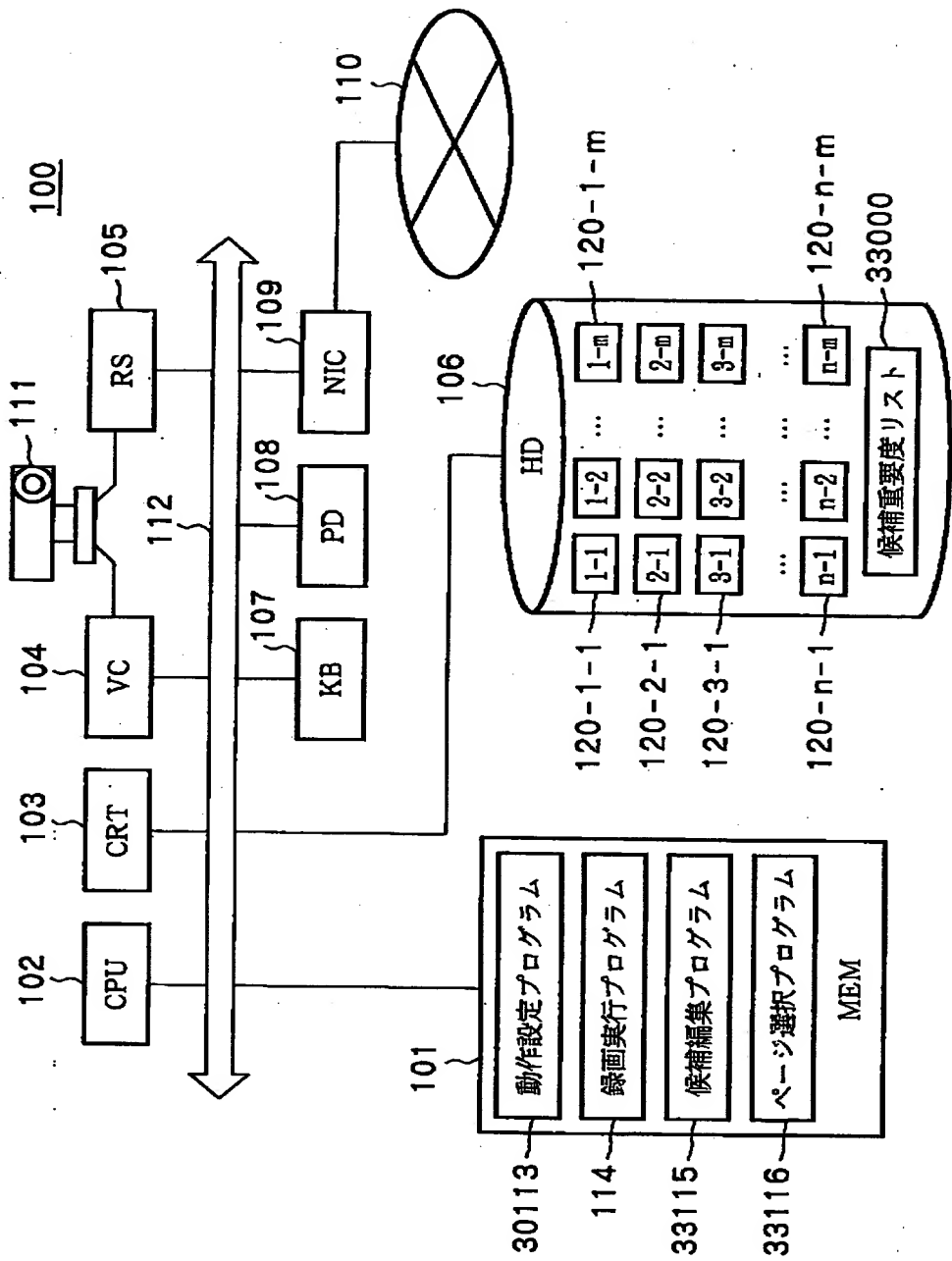


【図 1 9】

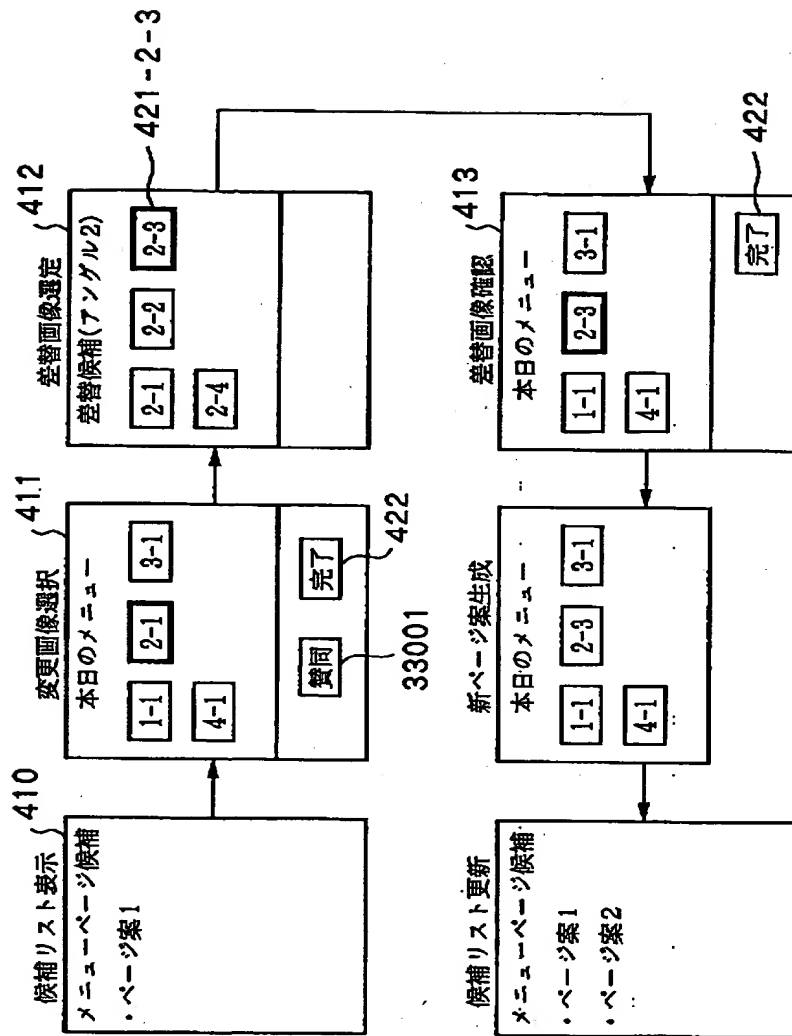
32000

ページ 1	0 回 , 11 : 20
ページ 2	1 回 , 11 : 25
ページ 3	2 回 , 11 : 30
ページ 4	3 回 , 11 : 55
ページ 5	2 回 , 11 : 40
ページ 6	3 回 , 11 : 45
⋮	⋮

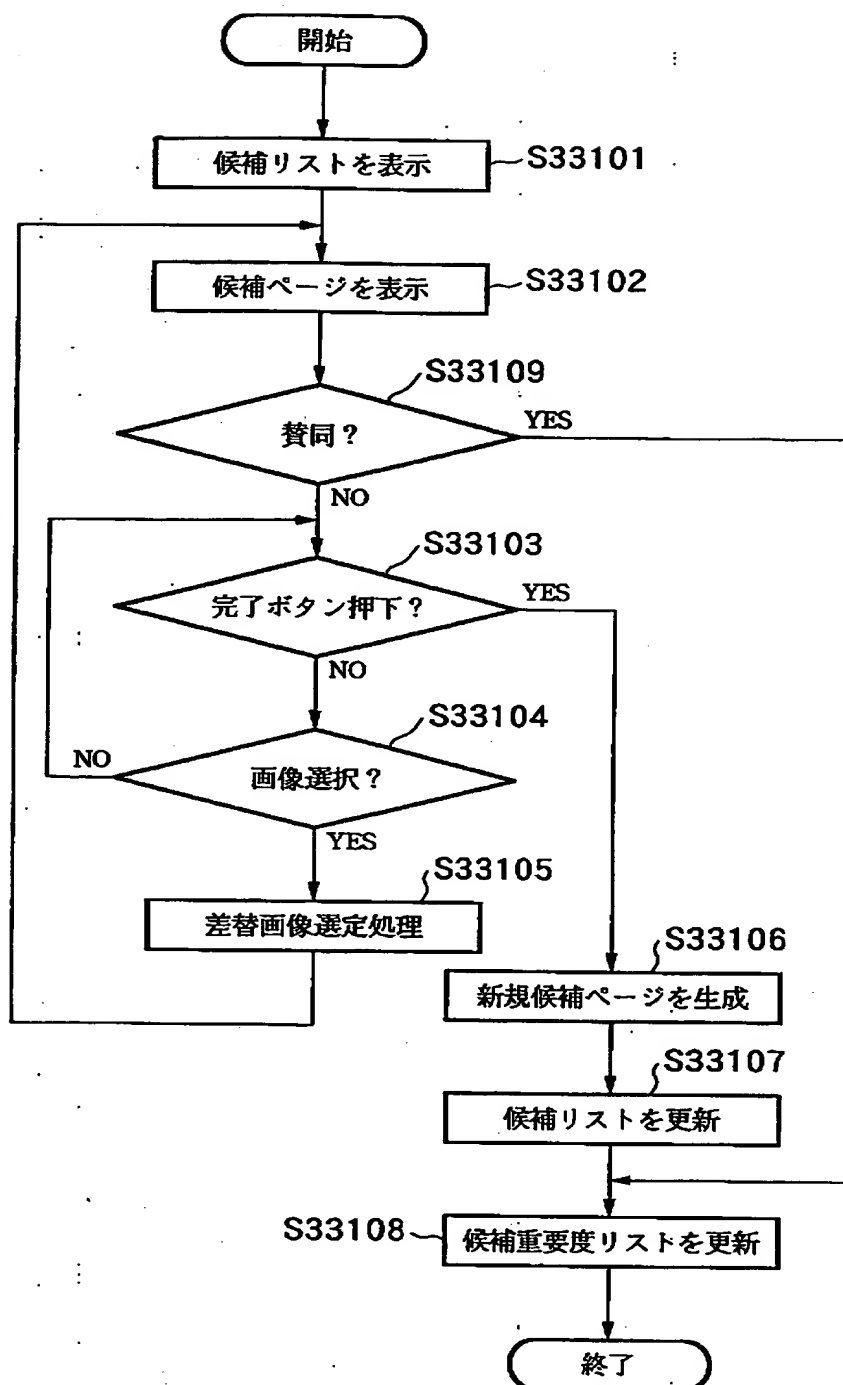
【図 2 0】



【図 21】



【図 22】

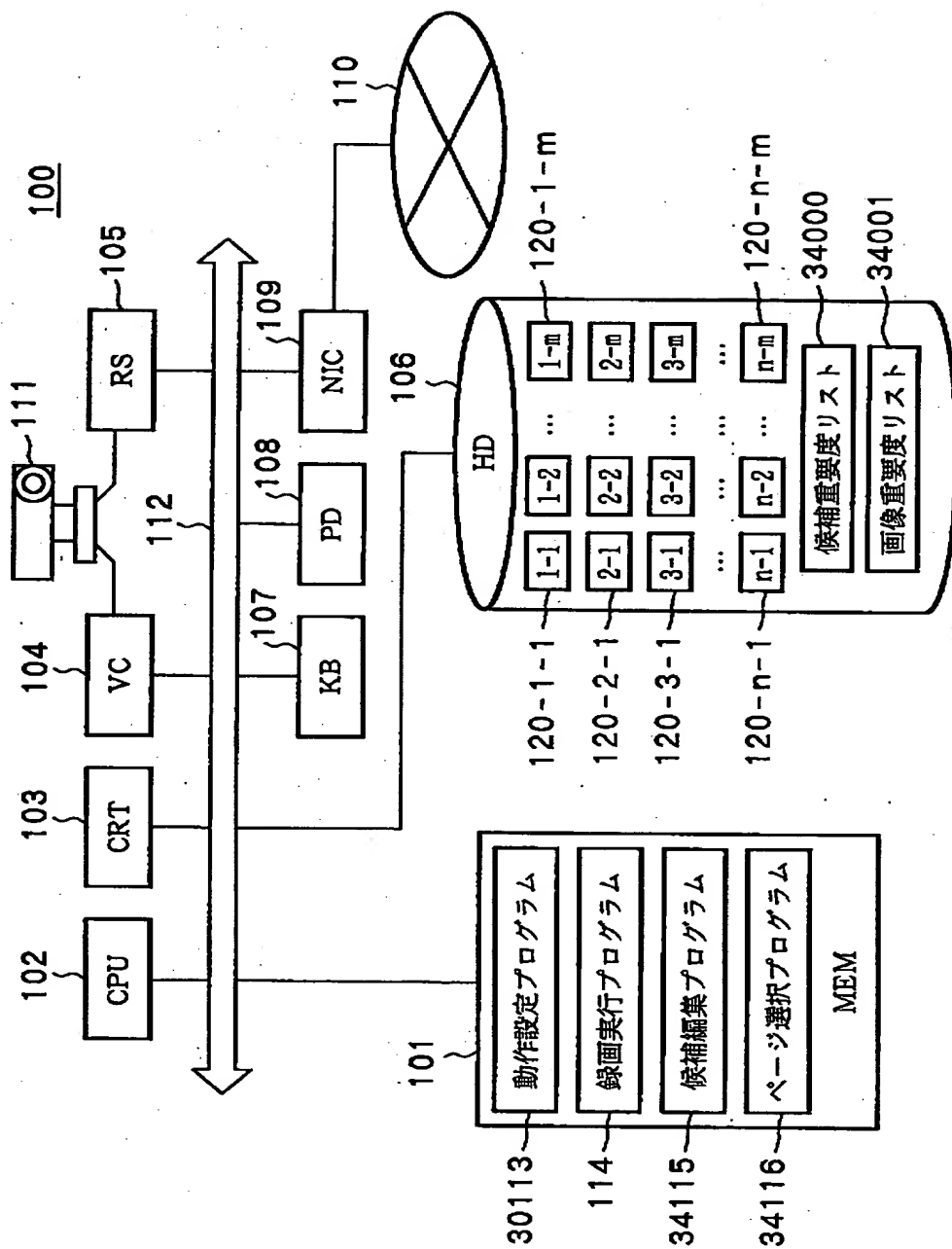


【図 2 3】

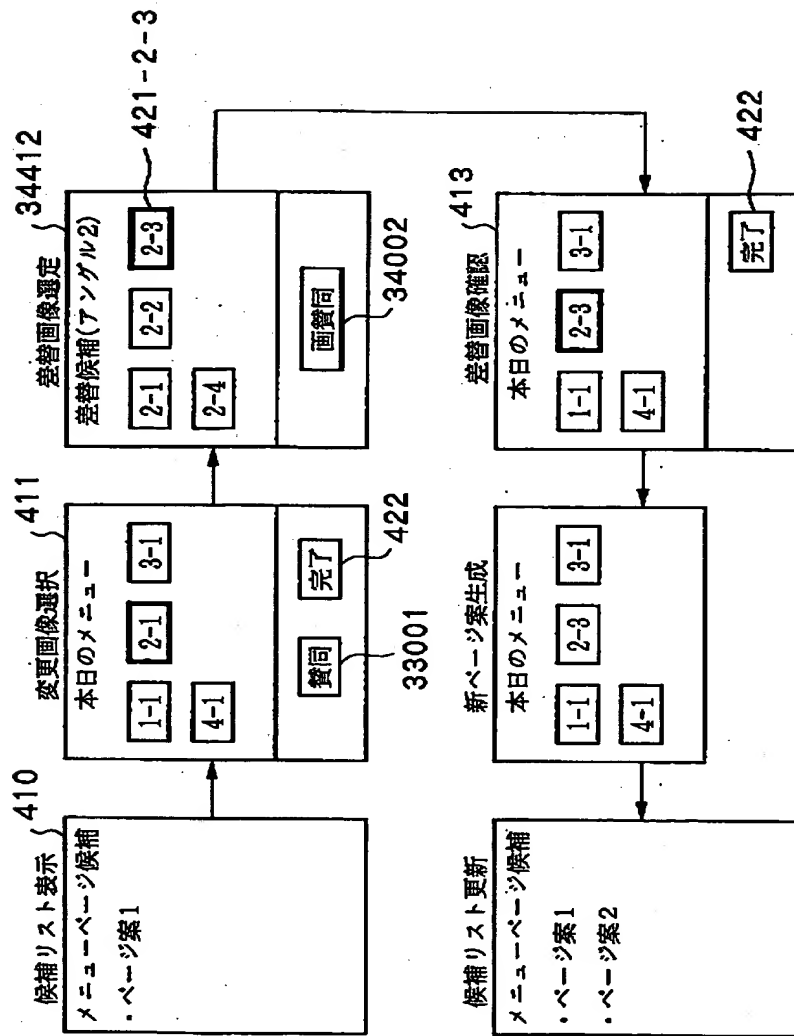
33000

ページ1	0回 , 11 : 20 , 1回
ページ2	1回 , 11 : 25 , 3回
ページ3	2回 , 11 : 30 , 1回
ページ4	3回 , 11 : 55 , 0回
ページ5	2回 , 11 : 40 , 0回
ページ6	3回 , 11 : 45 , 1回
⋮	⋮

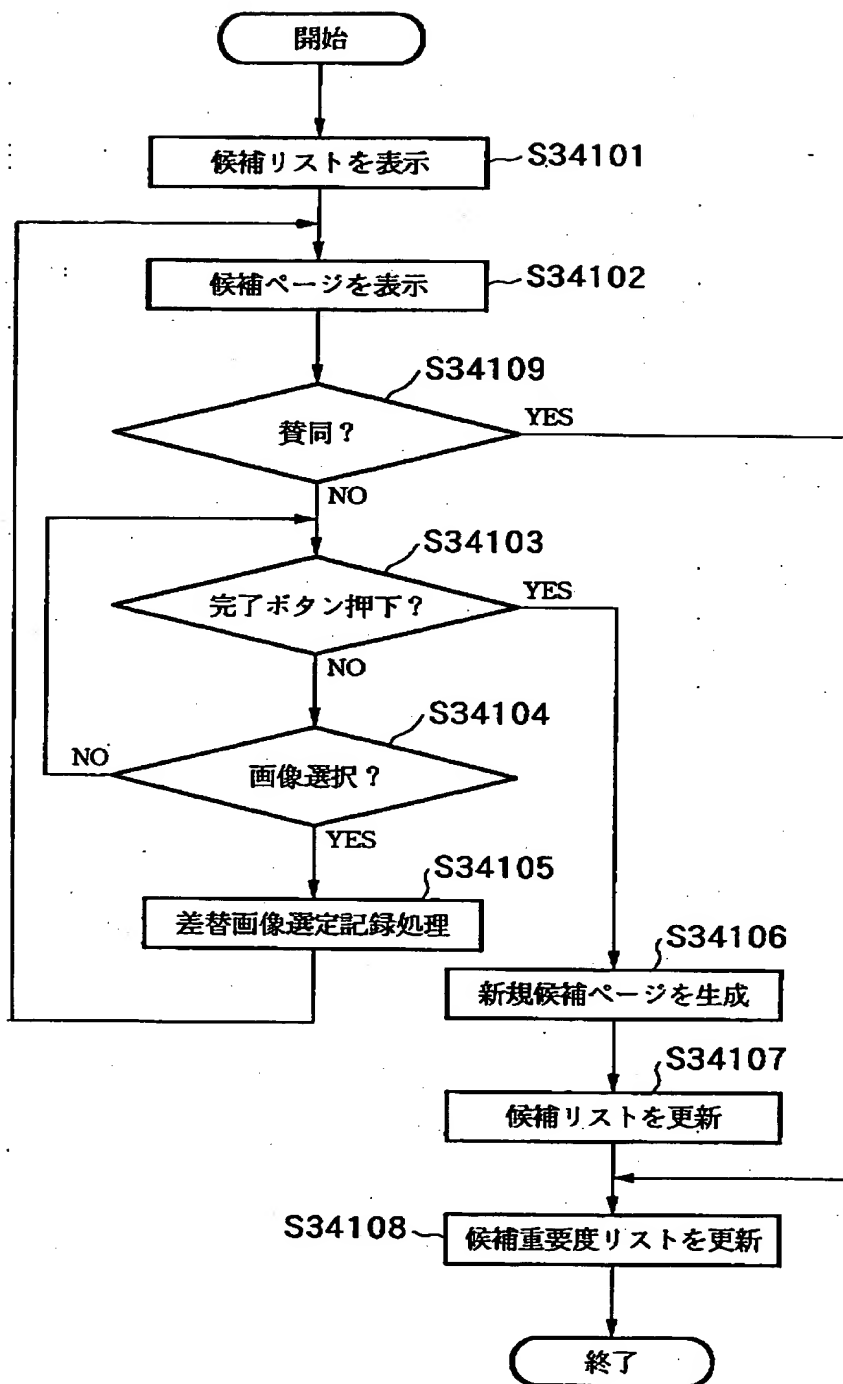
【図 2 4】



【図 25】



【図 26】



【図 2 7】

34001

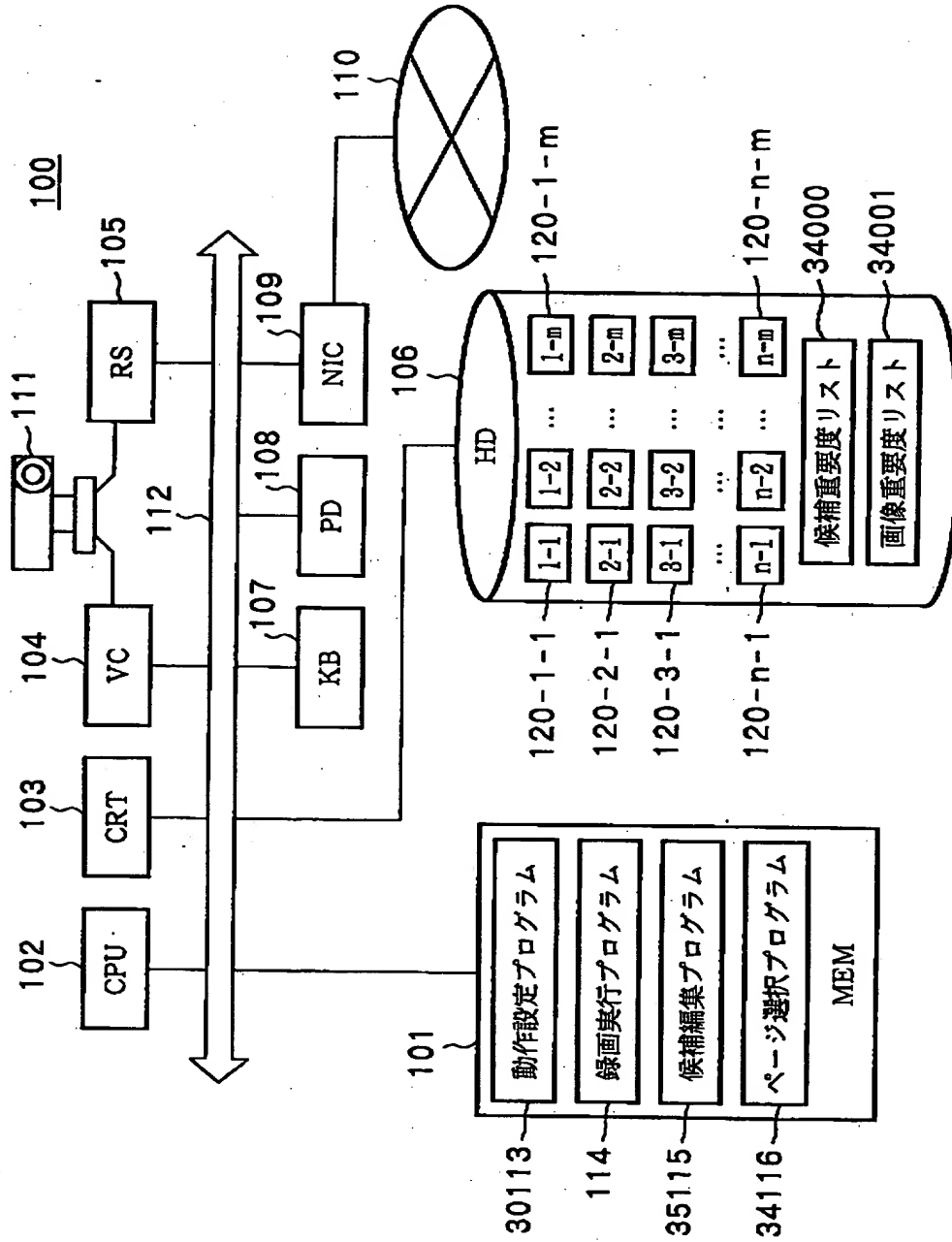
	選択	賛同
120-1-1	1	1
120-2-1	0	1
120-3-1	2	0
120-4-1	1	2
120-1-2	0	0
120-2-2	1	1
⋮	⋮	⋮

【図 2 8】

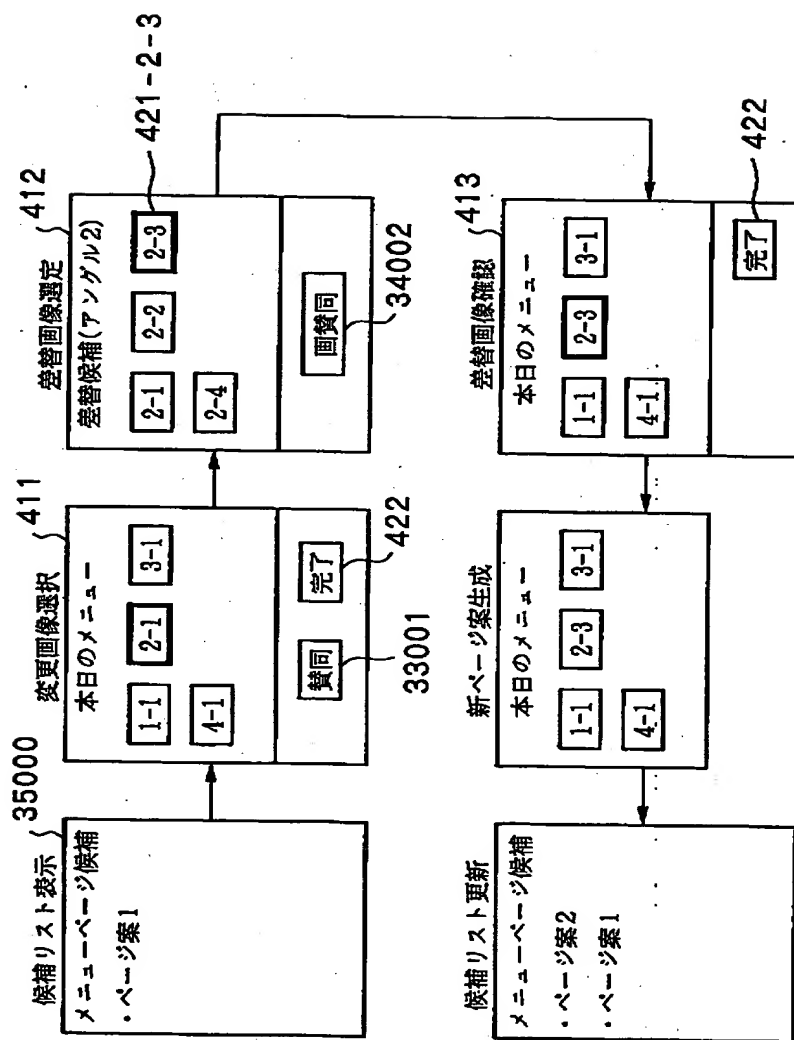
34000
{

ページ1	0回 , 11 : 20 , 1回	8
ページ2	1回 , 11 : 25 , 3回	6
ページ3	2回 , 11 : 30 , 1回	6
ページ4	3回 , 11 : 55 , 0回	7
ページ5	2回 , 11 : 40 , 0回	5
ページ6	3回 , 11 : 45 , 1回	7
⋮	⋮	⋮

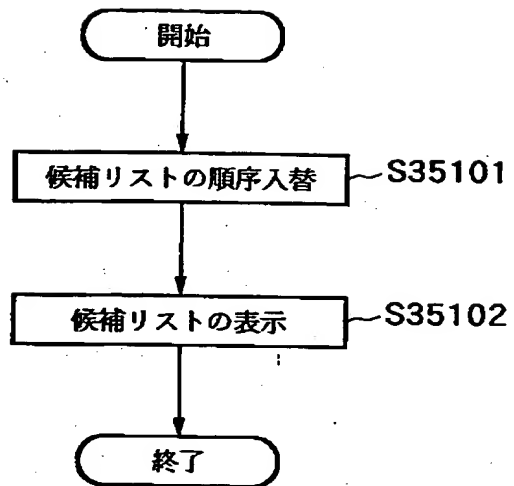
【図 29】



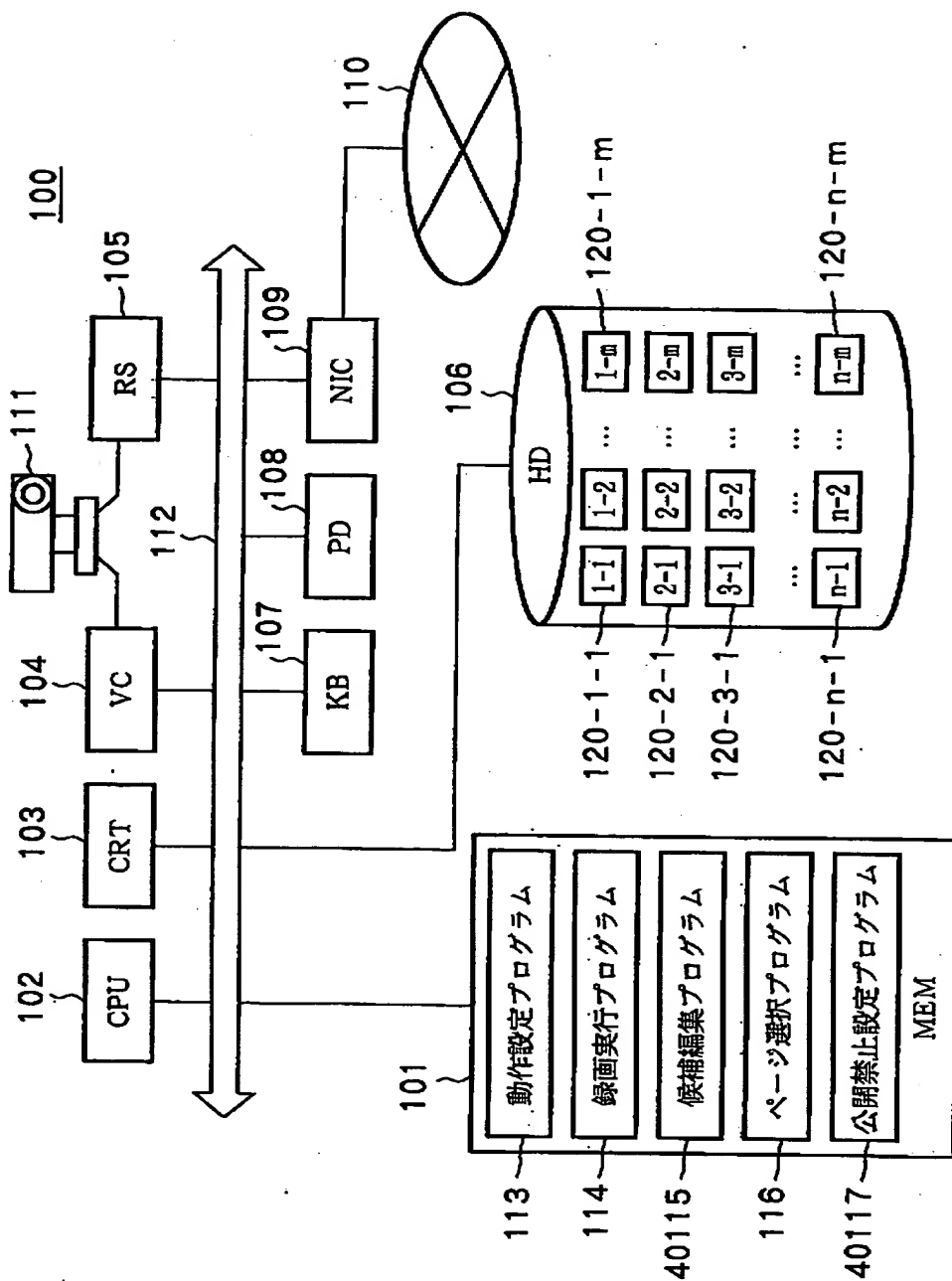
【図 3 0】



【図 3 1】



【図 32】



【図 33】

全ボジョーン共通設定

41001

41002
から

10:00

41003
まで

10:10

公開禁止時刻

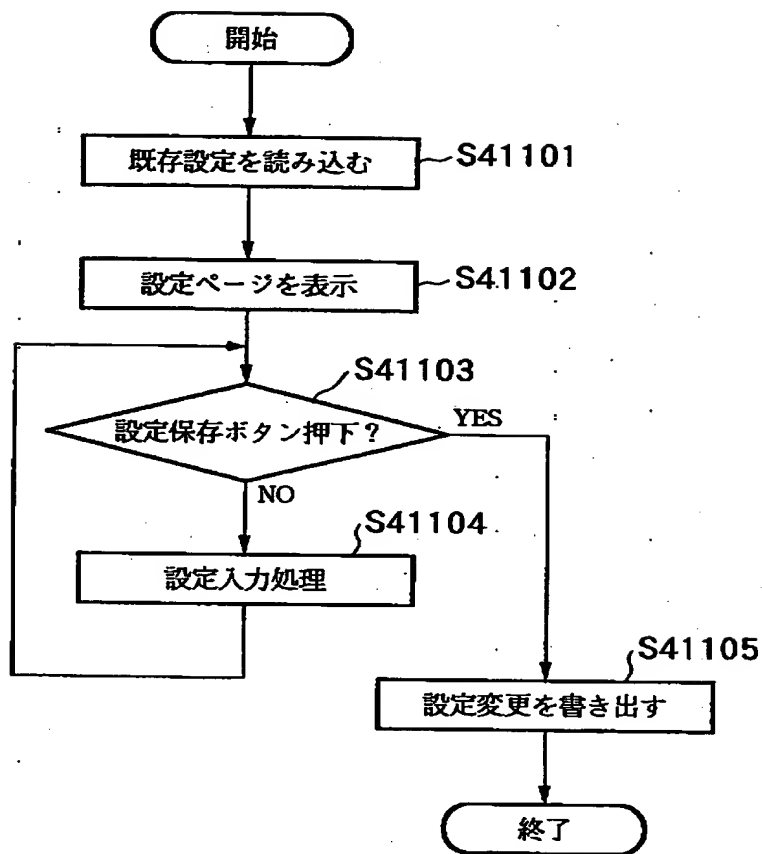
各ボジョーン設定

プリセット番号	1	2	3	4	5
41004	10:50	から	から	から	から
41005	11:00	まで	まで	まで	まで
全時間禁止				禁止	
41006					

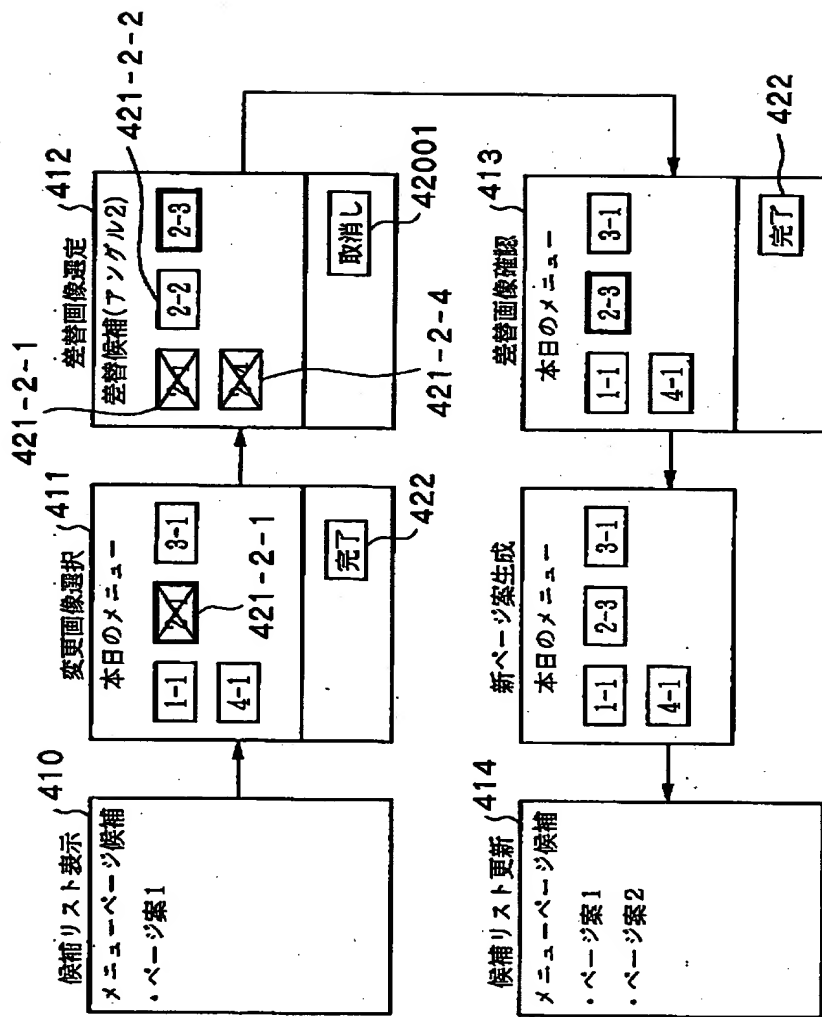
41007

設定保存
取り消し

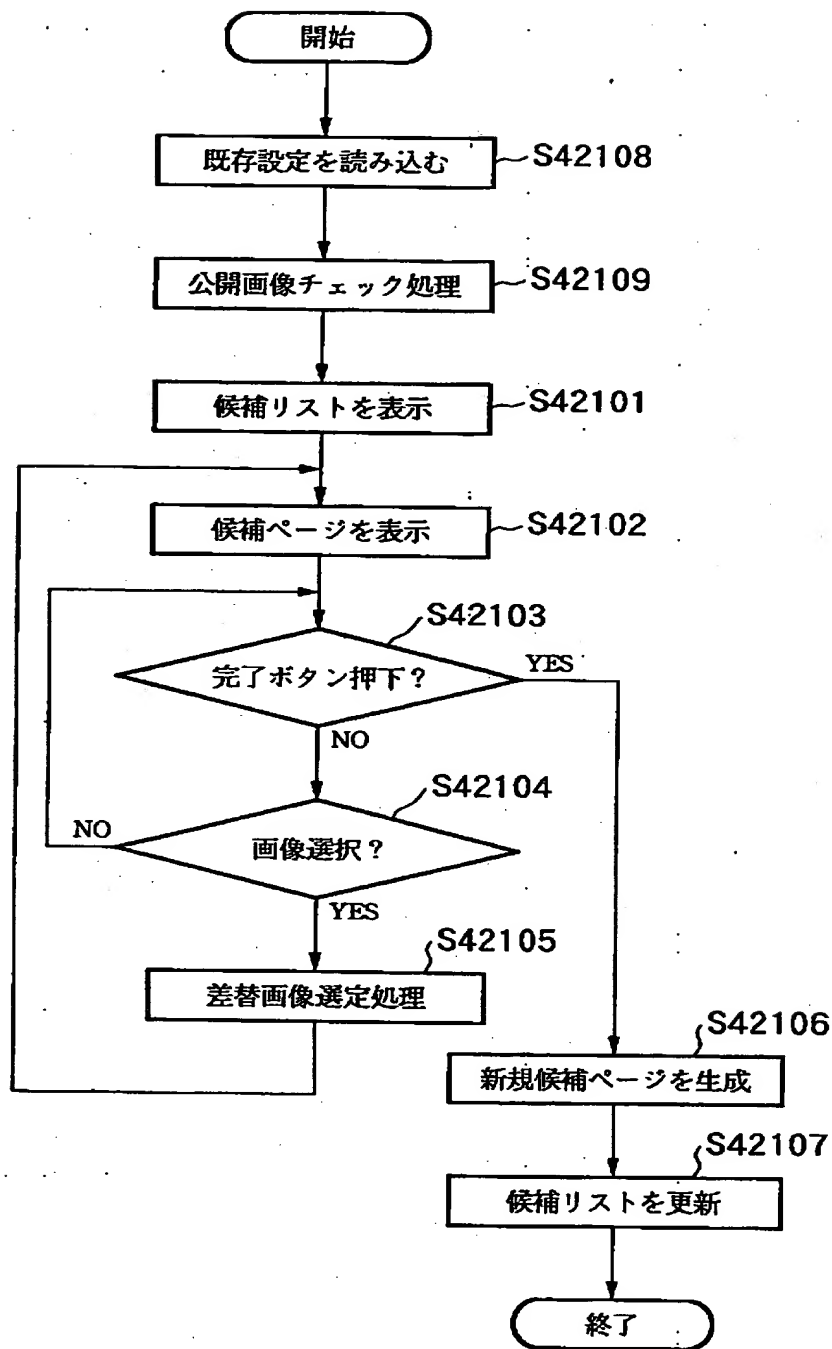
【図 34】



【図 35】



【図 3 6】

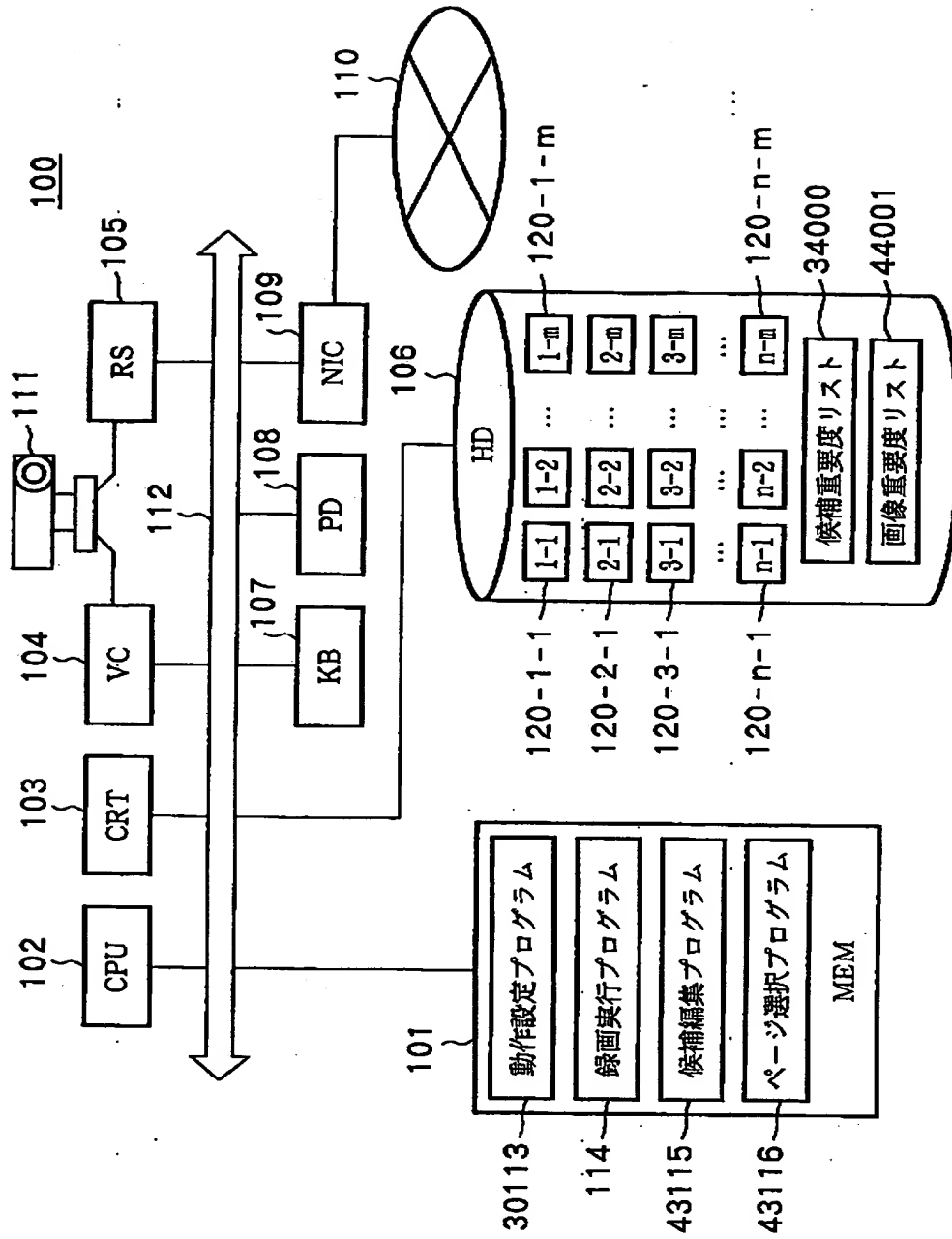


【図 3 7】

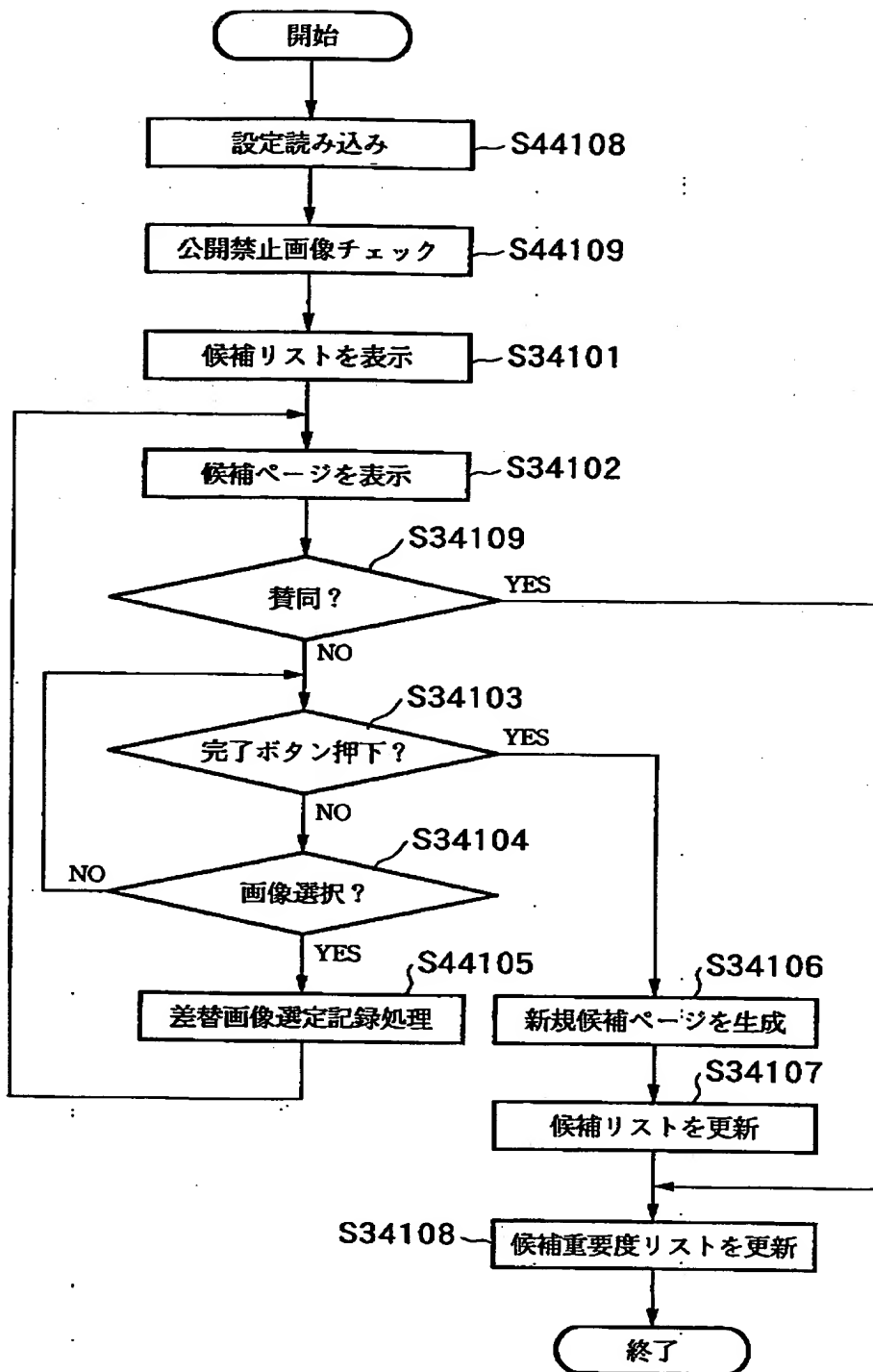
42201
}

	公開
120-1-1	O K
120-2-1	O K
120-3-1	N G
120-4-1	O K
120-5-1	N G
120-1-2	N G
120-2-2	O K
⋮	⋮

【図 3 8】



【図 39】

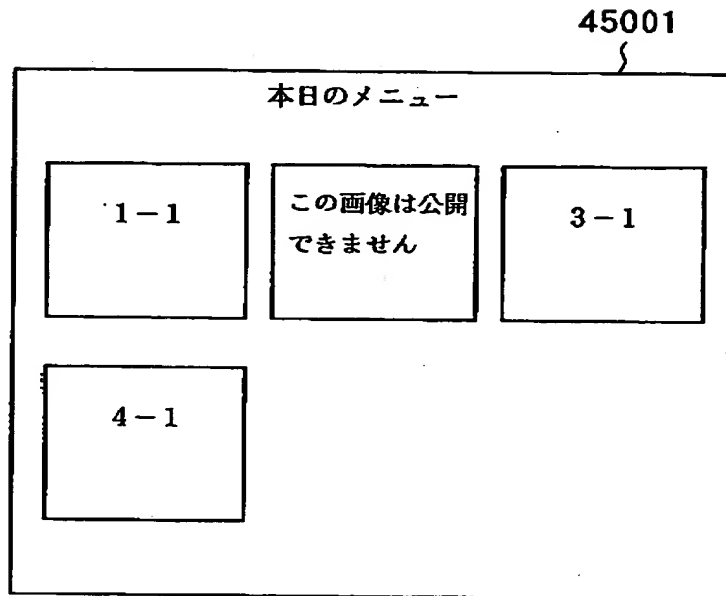


【図 4 0】

44001

	選択	賛同	公開
120-1-1	1	1	O K
120-2-1	0	1	O K
120-3-1	2	0	N G
120-4-1	1	2	O K
120-5-1	0	0	N G
120-1-2	0	0	N G
120-2-2	1	1	O K
⋮	⋮	⋮	⋮

【図 4 1】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ネットワーク上で発信するための文書に含ませる画像を、簡単に更新でき、しかも、所望とする撮影条件で撮影された画像について非公開として設定する。

【解決手段】 パン角、チルト角、ズーム可変のカメラ 1 1 1 の撮影時刻の撮影時刻と撮影状態を設定したデータが HD 1 0 6 に格納されている。そして、その時刻になると、設定された内容に複数の変位を与えて撮影を行わせ、得られた画像を HD 1 0 6 に格納する。そして、撮影して得られた画像中に非公開として設定した条件に合致する画像があった場合には、その画像については WWW サーバへのアップロード対象外にする。

【選択図】 図 3 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001007]

1. 変更年月日 1990年 8月30日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
氏 名 キヤノン株式会社